



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

令和2年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

平成 17 年度から始まった「公共ホール現代ダンス活性化事業」は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を実施するものです。A プログラム（地域交流プログラム）、B プログラム（市民参加作品創作プログラム）、C プログラム（公演プログラム）の 3 つのプログラムがあり、実施するホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいてプログラムを選択し、翌年度以降他のプログラムを継続的に実施できます。

この事業は、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

今年度は、全国 15 か所（A プログラム 3 か所、B プログラム 6 か所、C プログラム 6 か所）での実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により 8 団体が中止となり、そのうち 5 団体が令和 3 年度に延期して実施する予定となっています。

この報告書は、事業を実施した各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

目次

事業概要

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	6
事業の流れ	8

実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

【Bプログラム】

宗像ユリックス（福岡県宗像市）	10
荘銀タクト鶴岡（山形県鶴岡市）	18

【Cプログラム】

三次市民ホール きりり（広島県三次市）	28
ながす未来館（熊本県長洲町）	34
神戸アートビレッジセンター（兵庫県神戸市）	40
白河文化交流館コミネス（福島県白河市）	46
土佐清水市立市民文化会館くろしおホール（高知県土佐清水市）	52

事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット	60
令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	68
コーディネータープロフィール	73

事業概要

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
【Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）】		
山形県鶴岡市	鶴岡市	荘銀タクト鶴岡
福岡県宗像市	（公財）宗像ユリックス	宗像ユリックス
【Cプログラム（公演プログラム）】		
福島県白河市	NPO 法人カルチャーネットワーク	白河文化交流館コミネス
兵庫県神戸市	（公財）神戸市民文化振興財団	神戸アートビレッジセンター
広島県三次市	（株）暮らしサポートみよし	三次市民ホール きりり
高知県土佐清水市	土佐清水商工会議所	土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール
熊本県長洲町	（株）舞台風	ながす未来館

※事業中止・延期

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
【Aプログラム（地域交流プログラム）】		
岐阜県岐阜市	（一財）岐阜市公共ホール管理財団	岐阜市民会館
大阪府泉大津市	泉大津市	あすとホール
福岡県北九州市	（公財）北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
【Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）】		
岩手県宮古市	NPO 法人いわてアートサポートセンター	宮古市民文化会館
愛知県豊橋市	（公財）豊橋文化振興財団	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
愛知県小牧市	（一財）こまき市民文化財団	小牧市市民会館
沖縄県浦添市	浦添市てだこホール指定管理者共同企業体 ティダ・コミュニケーションズ&リレーションズ	アイム・ユニバース てだこホール
【Cプログラム（公演プログラム）】		
石川県野々市市	（公財）野々市市情報文化振興財団	野々市市情報交流館カメラア

*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

(2) 開催時期

令和2年10月～令和3年3月

(3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択。

① A プログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～5回）

*アウトリーチ（3回以上） *公募のワークショップ（1回以上）

② B プログラム（市民参加作品創作プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

③ C プログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）

(4) 研修会

① 全体研修会

日時：令和元年7月29日（月）～7月31日（水）

場所：東京芸術劇場 *地域創造フェスティバル2019と同時開催

内容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

② 現地見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に派遣

(5) 費用負担

地域創造と実施団体が負担する主な経費区分

1) 地域創造が負担する経費

① 登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【A プログラム】 登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）

【B プログラム】 登録アーティスト、クリエイションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

【C プログラム】 登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）

② 公演負担金（Bプログラム及びCプログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担

2) 開催地の地方公共団体等が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

上記1)以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

① 全体研修会の開催

② コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等 共催：一般財団法人地域創造

3 令和2年度コーディネーター

大澤 苑美（八戸市新美術館建設推進室 主事兼学芸員）

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前 沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター／ディレクター）

坂田 雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

中富 勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

中西 麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

4 2020・2021 年度登録アーティスト（五十音順）



©bozzo

●北尾巨

幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009年ダンスカンパニー [Baobab] を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。振付家として、舞台作品のほか、TVドラマ、CM、映画へ多数振付。ダンサー・俳優として多くの作品に出演。WS 講師やアウトリーチ活動を全国で展開。急な坂スタジオサポートアーティスト。尚美学園大学、桜美林大学非常勤講師。横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I 「ベストダンサー賞」、ベッシー賞（ニューヨーク・ダンス & パフォーマンス賞）「OUTSTANDING PERFORMER 部門」（2020年）ノミネートほか、多数受賞。



©Hatori Naoshi

●白井剛

千葉大学工学部にてデザインを学びながらダンス・パフォーマンス・映像などの創作活動を始める。コンテンポラリーダンスの若手振付家の国際的登竜門として知られるフランスのパニョレ国際振付賞を国内最年少受賞するなど、国内外の賞を多数受賞。2000年代日本のダンスシーンの寵児として注目される。現在は「AbsT」という活動屋号を起点に、ソロ作品をはじめ、ダンサー・音楽家・美術家・メディアアーティストとのコラボレーションや、経験問わず身体を自由に丁寧に探求するワークショップを各地で行っている。



●田村一行

舞踏家・振付家・俳優。東京都出身。1998年大駱駝艦入艦、麿赤兒に師事。以降、大駱駝艦全作品に出演。2002年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第34回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。2011年より（一財）地域創造〈公共ホール現代ダンス活性化事業〉登録アーティストとして、地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。http://www.dairakudakan.com



●長井江里奈

舞台芸術集団「山猫団」主宰。

「伊藤キム+輝く未来」「まことクラヴ」にてダンサーとして国内・国外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。ダンスを通して誰もがお互いの個性と自由を認められるコミュニティを作ることを目標に、日本各地で公演活動とワークショップを行う。愛鳥のセキセイインコと遊ぶのが日々の癒し。



© 金子愛帆

●中村蓉

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。小野寺修二、近藤良平、室伏鴻の振付作品に出演、アシスタントを務めた後、自身の作品をルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典（韓国光州・横浜）など国内外で上演。二期会オペラ『ジュリオ・チェーザレ』やロックバンド sumika「MAGIC」など MV の振付も担当。2018 年ドイツに 2 ヶ月滞在し振付したマインフランケン劇場製作オペラ『NIXON IN CHINA』（演出：菅尾友）はバイエルン放送が選ぶ年間ベストプロダクション 10 に選出された。他にダンサーとして郷ひろみ「笑顔にカンパイ！」MV にも出演。〈歌謡曲スイッチ〉と題し、歌詞に登場する人物になり切って踊るダンスワークショップを各地で展開中。第 1 回セッションベスト賞（2012）、横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞（2013）、第 5 回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞（2016）など受賞。



© コスガ・デスガ

●藤田善宏

振付家・演出家・ダンサー・デザイナー。ダンスカンパニー CAT-A-TAC（キャットアタック）主宰。コンドルズ メンバー。第 72 回文化庁芸術祭舞踊部門新人賞受賞。福井しあわせ元気国体開会式典演技振付総合監修。群馬大学非常勤講師。身体表現と道具を駆使した台詞のない物語、柔軟な発想を生かした異ジャンルとのコラボが得意。三世代間で楽しめるダンス劇作品や石見神楽など伝統芸能とのコラボや児童演劇・幼児教育教材の監修。小栗旬や加藤シゲアキ、ジャニーズ Jr 主演舞台や TEAM NACS への振付やステージング、NODA・MAP、山田洋次監督演出ミュージカルへの出演、NHK 教育番組の振付・出演他、MV、CM、舞台作品、振付出演多数。障がい者対象の WS など多様性を重視した活動にも力をいれる。愛猫家、プロレス・仏像愛好家、メガネ・アンティーク収集家。



©Nonoko Kameyama

●マニシア

「フレワレワークス」代表／コミュニティダンスアーティスト・ダンスムーブメントセラピスト・ダンサー。長期における NY を拠点とした活動後、福岡で多国籍、多世代の参加者約 100 名とアジアの路上生活の子どもたちへの救済チャリティー公演を 13 年間開催。その後、障害のある人々とプロダンサーたちとのダンスグループ、フレワレワークスを結成。難病の子ども、パーキンソン病の方、DV 被害者、不登校生、少年院のティーンを対象とした WS や作品のクレーションなどに挑戦しながら、あらゆる場所にダンスの種を蒔き続けている。コロナ禍の現在、移民問題で出生届けを出されていないマレーシアの子どもたちとオンラインで WS を継続中。



●康本雅子

ダンサー・振付家。大人になってから独学でダンスを始め、自身のダンス作品を国内外で発表する他、演劇や映像、広告の振付など多岐に渡るジャンルにて活動している。特に音楽家とのコラボレーションは好きすぎて多数行っている。近年は小・中学校でのダンス WS や作品創作も多数行っており、ダンサーならではの視点を生かしたワークショップ「マジな性教育マジか」も始動。2児の母。

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

1 期 日

令和元年7月29日（月）～7月31日（水）

*地域創造フェスティバル2019と同時開催

2 会 場

東京芸術劇場

3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

4 プログラム内容

7月29日（月）

時間	会場：シンフォニースペース
14:00～15:30	セッション①「ワークショップ」 講 師：アーティスト 遠田誠（ダン活支援アーティスト）、小林利那（アシスタント）
着替え・休憩	
16:00～16:30	セッション②「事業概要説明」
休憩	
16:40～19:30 (途中休憩あり)	セッション③「ダン活で取り組みたいこと&ディスカッション」 講 師：コーディネーター 大澤苑美（進行）、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、 宮久保真紀

7月30日（火）

時間	会場：シアターイースト、シアターウエスト
9:45～12:30	セッション④ シンポジウム「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設—少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」*1
昼休憩・着替え	
13:30～14:45	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」*2 (登録アーティスト3組3名)
休憩	
14:55～16:10	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」*2 (登録アーティスト3組3名)
休憩	
16:20～17:10	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」*2 (登録アーティスト2組2名)
移動(着替え)・休憩	
17:25～19:25	セッション⑥「フィードバック」 講師：コーディネーター 宮久保真紀(進行)、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友
移動	
19:35～21:05	交流会(情報交換会)

7月31日（水）

時間	会場：シンフォニースペース
10:00～12:30	セッション⑦「フィードバック～企画発表」 講師：コーディネーター 小岩秀太郎(進行)、大澤苑美、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、宮久保真紀
昼休憩	
13:30～15:00	セッション⑦「企画発表」 講師：コーディネーター 小岩秀太郎(進行)、大澤苑美、神前沙織、坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、宮久保真紀
15:00～15:15	事務連絡

*1のセッションは、地域創造フェスティバル2019のプログラム

*2のセッションは、地域創造フェスティバル2019のプログラムとして公開

事業の流れ（9月実施のケース）

時期	(一財) 地域創造	コーディネーター	実施団体	アーティスト
令和元年度 7/29～7/31	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）			
8/16 締切	実施計画案の確認		実施計画案作成・提出	
	(仮) 日程調整		(仮) 日程調整	
9月下旬	コーディネーター会議 (事業日程、アーティスト、担当コーディネーター決定)			
令和2年度 4月上旬	決定通知発送		各種準備 (内容詰め、宿泊手配、制作スケジュール打合せ等)	
4月下旬～	コーディネーター アーティストの派遣	個別研修（現地下見） (1回)		
7月上旬	計画書の内容確認		実施計画書作成	
	契約書作成		実施計画書提出 (事業実施2か月前)	
	契約締結		契約締結	
			広報、各種調整 (全体スケジュール、フェカル、当日スタッフ体制等の調整)	
9月	事業実施			
10月	出演料等支払			出演料等請求
			実績報告書等提出 (事業終了後1か月以内)	
令和3年度 5月	事業報告書発行			

実 施 内 容 紹 介

(実施日程順)

コーディネーターレポート

Bプログラム

(市民参加作品創作プログラム)

実施団体	公益財団法人宗像ユリックス
実施ホール	宗像ユリックス
実施期間	令和2年10月10日(土)～10月11日(日) 令和2年12月14日(月)～12月20日(日)
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等：ニシハラ☆ノリオ
コーディネーター	神前沙織

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 10月10日(土) 15:00～16:30、中学生以上、500円(ペア800円)、12名、イベントホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『12月20日』

■ 12月20日(日) 14:30開演(14:00開場)

■ 長井江里奈、鈴木綾香、北園優(音楽)、市民ダンサーズ(ワークショップ参加者)8名、宗像ユリックス職員(7名)

■ 一般1,500円、会員一般1,000円、学生500円、出演者割引1,000円

■ 宗像ユリックス ハーモニーホール

■ 150名

はじめてのダンスから舞台へ

一生に一度「この日だけのダンス」

オリジナルダンス公演
12月20日

ピアノの生演奏で踊る

舞台芸術団体「山楳団」と市民ダンサーによる奇跡の1日
10月からワークショップを重ね、自分自身と向き合ってきた市民ダンサーたち
「本当の自分」はたまた「新しい自分」と出会えた頃と、「山楳団」が織りなすひとときの人生劇場

【出演】舞台芸術団体 山楳団と市民ダンサーズ

2020年 12/20日 14:30開演
宗像ユリックスハーモニーホール

チケット好評発売中

宗像ユリックス文化事業部 0940-37-1483

はじめてのダンスから舞台へ Road to 12月20日

一生に一度「この日だけのダンス」

オリジナルダンス公演「12月20日」への思い

このコロナ禍に、市民参加型のダンス公演が成立するというのはかなり難なことだとして、先が読みづらい日々の中で、本番のたった一日の舞も期しています。特別な日でありながらもそれは365日のうちの一日であることに変わりなく、世界中の人たちがそれぞれの状況の中で12月20日を過ごします。最高の一日という人もいれば、最悪の一日という人もいます。色々な事がある中で、「私たちは12月20日に舞台に立つことを選ぶ」という意味で、毎年のタイトルを「12月20日」にしました。

12月20日は私たちが生まれる前も死んだ後も同じように生きています。それでも今日という日は一度しかない。このかけがえのない日に踊り広げられる、出演者それぞれの人生を越えたステージをぜひご覧ください。

市民ダンサーズ Shimizu Dancers

山楳団 Yamamegumi

宗像ユリックス文化事業部

TEL 0940-37-1483

https://yurix.munakata.com

スケジュール

福岡県宗像市／宗像ユリックス

	下見	
	6/22 (月)	6/23 (火)
9:00		テクニカル 打合せ
10:00		↓
11:00		WS募集チラシ 撮影
12:00	宗像着	昼食
13:00	昼食	
14:00	会場下見 打合せ	インリーチ 準備
15:00	↓	インリーチ
16:00	広報用取材 撮影	振り返り
17:00	↓	終了・移動
18:00	交流会	
19:00	↓	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①	
10/10 (土)	10/11 (日)
	スケジュール 確認
	クリエーション①
	↓
音響・照明確認	
公募 WS 打合せ	公演チラシ撮影
	↓
公募 WS	全体振り返り
↓	
振り返り 翌日の打合せ	移動
↓	
交流会	
↓	

	実施期間②						
	12/14 (月)	12/15 (火)	12/16 (水)	12/17 (木)	12/18 (金)	12/19 (土)	12/20 (日)
9:00		設営		クリエーション⑦ (職員向け)	テクニカル 打合せ	照明仕込み	舞台最終確認
10:00		クリエーション② (職員向け)	美術仮仕込み	↓	美術・音響 仕込み	シユート	リハーサル
11:00		↓	↓	テクニカル 打合せ	↓	↓	↓
12:00		休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	手直し
13:00	工程確認 搬入作業		準備・仕込み	準備・仕込み	準備・仕込み	準備・仕込み	休憩・準備
14:00		クリエーション③	クリエーション⑤	クリエーション⑧	クリエーション⑨	通し稽古	公演
15:00	アーティスト 稽古	↓	↓	↓	↓	手直し	バラシ
16:00	↓	↓	休憩	↓	↓	準備	フィードバック
17:00	↓	休憩	クリエーション⑥	休憩	休憩	ゲネプロ	移動
18:00	↓	クリエーション④	↓	通し稽古	止め通し稽古	全体打合せ	
19:00	交流会	↓	↓	↓	↓	終了	
20:00		個別練習	個別練習	個別練習	終了		
21:00		終了	終了	終了			
22:00							

公募型ワークショップ

6月の会場下見の際、近隣の文化会館職員を対象としたインリーチを実施。コロナ禍でのダンスワークショップについての検証と意見交換の場となった。感染防止対策の事前説明の必要性、マスクの影響で表情が判別しにくいなど、貴重な意見や課題を得る事が出来た。さらに「オンラインワークショップではなく集まってやるのは楽しい」、「アイコンタクトでも通じ合える」などの意見もあり、当事業を実施するうえで弾みとなった。

感染症対策のため会場の広さに合わせ募集人数を10～15名に設定。ダンス経験は問わず、コロナ禍でも出来るダンス、人と関わりづらい日々だからこそ参加してほしいという思いを募集チラシにも打ち出した。募集の結果、主婦、ダンサー、薬剤師、美容師、中国からの留学生など、ダンス経験も様々な20代～70代の12名（女性11名／男性1名）が集まった。ワークに入る前にアーティストが感染症に対する意識確認、ワーク中の距離やお互いに接触しない事などを説明。参加者のコンセンサスを取りながら、この日のガイドラインを決めた上でワークを開始。ガイドラインを遵守しながらも参加者同士のコミュニケーションが図れる内容となっており、「広い場所で、いろんな人と踊れるのって楽しい。楽しみで昨日眠れなかった。」「コロナ禍で踊る機会が無くなっていただけ、広い舞台でのびのび出来て嬉しかった。」「形にとらわれない、内側から踊るダンスを皆で出来て楽しかった。」「今年は暗いニュースばかりで、家に籠っていたら心の病気になるってしまいそうだったので、この企画をしてもらって嬉しかった。」などの感想をいただいた。コロナ禍で得る事が難くなった解放感や、他者との交流によって生じる喜びを、ダンスを通じて感じてもらいたいという今回の取り組みが伝わった事を実感できた。そして当事業を実施する意義を改めて感じた。



クリエイションの様子

● 1回目のクリエイション

公募ワークショップの翌日に1回目のクリエイションを開催。ストレッチから自然な流れでクリエイションに。小さな台の上で、ゆっくりと動き音楽の停止と共に止まるという「彫像台」というシーンを練習。「お題」などのない自由な動きのため、コンテンポラリーダンス未経験者には戸惑う部分もあったが、長井さんが様々な言葉を使って丁寧に動きのイメージや感覚を伝えることで、徐々にコツを掴んでいた。後半は「星々」というシーンの振付。このシーンにはホール職員もダンサーとして出演することが決まっており市民ダンサーズと共にクリエイションに参加。

● 公演チラシ用撮影会

公演チラシに出演者の写真を掲載するため1回目のクリエイション終了後に撮影を行った。当初は個別の写真のみの予定だったが、いつの間にかBGMが流れはじめ、クラブさながらに全員が自由に踊る姿を撮影するフォトセッションとなった。この時生まれた雰囲気、公演のイメージにもつながり出演者と職員による「ユリックスダンス部」誕生のきっかけとなった。

● 自主練習

出演者からもっと練習したいという意見があがった。そこで「ユリックスダンス部」と称して2週間に1度の練習日を設けることになった。アーティストにも協力いただき、練習日に合わせて新しいミッションや振付のポイントなどを動画で送っていただいた。自主練を通して、出演者同士がフォローし合う空気感が自然に生まれた。また練習には事業担当者ではないが、公演に出演するホール職員も参加。ホール全体でこの公演を成功させたい、盛り上げたいという思いが伝わり、ホールとの連帯感が生まれ、クリエイション再開まで熱量を持続させる結果となった。

● クリエーション再開（初日）

2ヶ月を経て本番5日前からクリエイションを再開。自主練習してきたダンスの振り返りや、それぞれの自己紹介シーンの振付など、初日から昼と夜で5時間以上のクリエイションを行った。



●群舞

公演最後のシーン「星々」。10月から練習してきたダンスに、「手合わせ（片方の手の平を合わせて、互いの圧を感じながらの動き）」や「抱きぬき（止まっている相手の体の一部に自分の一部を当てて止まると、止まっていた相手が動く）」などの自由な動き（インプロ）を組み合わせたシーンとなった。全員で同じ動きをする一体感と、個々で自由に動きながらも感じる一体感が表現されたシーンになった。

●自己紹介～ようこそ劇場へ

公演の冒頭のシーンである自己紹介は、1人1人にスポットが当たり、個性が光るシーン。舞台の幕を効果的に利用し、これから始まるぞ！という期待が高まる演出になった。続くシーンは山猫団の北園優氏による歌とピアノに合わせたペアのダンス。生歌・生演奏での稽古に皆のテンションも上がっているように感じた。

●通し稽古

クリエーション再開3日目から通し稽古がスタート。これまで稽古してきたシーンが1つに繋がり、書面でしか認識していなかった公演全体図を体で掴む事ができ出演者のモチベーションがさらに上がったように感じた。

●ゲネプロ

公演前日。怪我のため自主練習途中からお休みしていた出演者1名がこの日から参加。他の出演者が温かく迎え入れ、明るい雰囲気してくれたこと、本人もお休み中に出演シーンの練習を真面目にしてくれていたことで、全員での初稽古は驚くほどスムーズに進んだ。

さらに諸事情で出演者の1名がこの日に初めて来館。他の出演者にも意見を聞きながら、最終的にアーティストと本人が話し合った結果、怪我をしている出演者を舞台袖でフォローする市民スタッフとして参加する事が決まった。

夕方からゲネプロを実施。出演者・スタッフの集中力がグッと高まっているのを舞台上で感じた。ゲネプロは完璧な仕上がりととなり、本番への自信につながった。



公演

『宗像ユリックス オリジナルダンス公演「12月20日」』



当財団にとって初めてとなる市民参加型コンテンポラリーダンス公演。公演タイトルは公演日でもある「12月20日」。誰かと過ごす1日の重みが増しているように感じる昨今、「このかけがえのない一日に繰り広げられる、出演者それぞれの人生を辿ったステージを観てもらいたい」というアーティストの想いが込められている。

作品は出演者各々の自己紹介シーン、舞台上に立てる喜び、誰かと共に時間を共有する喜びと難しさ、そして自分自身の人生を見つめるなど、様々なシーンで構成された。舞台上にはグランドピアノとティンパニが置かれ一部を除いて全て生演奏。クラシック音楽向けのホールの構造が活かされ会場全体に美しい音が響いた。最後は袖幕を全て無くし、舞台スタッフの姿や、機材などがむき出しの状態のなか、出演者全員による、全てを出し切るような、むき出しのインプロで幕を閉じた。舞台上にある全ての人・モノが、それぞれの存在感を放ちながらも、美しく融合するような作品となった。

公演チラシには、市民参加者の写真と名前を掲載。自身が掲載されていることで、友人・知人に声が掛けやすい、自身のSNSにアップしやすい、などのメリットがあった。またアーティストメッセージや自主練習風景などの動画を定期的にYouTubeやInstagramなどにアップ。常に目新しいコンテンツを提供し情報の鮮度を保つよう努めた。新たなコンテンツがあることで関係者もシェアしやすく、情報が拡散する結果となった。

●来場者アンケートより（感想）

- ・一生に一度しかない2020年12月20日をお客様として、この場に参加出来て幸せでした。(30歳代)
- ・みなさんの想いや熱意が伝わるよいステージでした。美術も音楽も振付も素晴らしく全体的に何故がウルウル感動しました。(40歳代)
- ・面白かったです。機会があれば、私も参加したいなと思いました。(50歳代)
- ・魂の踊りを見せていただきました。ピアノも良かったです。息を殺して観ました。(80歳代)
- ・参加者（市民）の方とスタッフの方がこんな風に手を携えてステージを作るという、それを叶えられるホールであるという事が本当に素晴らしいなと思いました。素敵な時間をありがとうございました。2020年12月20日を一緒に過ごす事が出来て良かったです。お疲れ様でした！！(30歳代)
- ・コロナで様々なイベントが中止になっているのに、ワークショップや本日の舞台を開催して下さってありがとうございました。今日の舞台はユリックスの職員の方のダンスが一番ぐっときて感動しました。沢山練習されているのが伝わりました。(30歳代)
- ・女性の人生観が盛り込まれていて共感した。(30歳代)

●この事業への応募動機

宗像ユリックスでは主に音楽を通じて地域の文化・芸術振興に努めてきたが、新たなジャンルを求めて当該事業に申請。2018年度のAプログラム時から3年連続での実施を決めていたが、昨年のCプログラムの中止を経てのBプログラムとなった。新しい生活様式の導入などで、既存の価値観に大きな変化が生まれる中、公共ホールの真価が問われる時代になっている。人生の豊かさとは何か、さらに進化するコミュニケーションの多様性など、新しい価値観の中で、公共ホール存在意義と文化・芸術振興の可能性を探るため実施を決めた。

●事業のねらいと企画のポイント

ダン活1年目に掲げた「混乱から生まれる交流」というテーマを継続。オンライン化が進み、画面を通して多くの人や物とつながる事がより一層容易になっているが、「頭・脳」だけの交流ではなく「心とカラダ」が伴う交流が生み出す感動を届けることを目指した。出演者は「日々の生活に充足感がない」、「感情を持てあましていない」など、少し不器用で自信のない人々、育児や転居で孤立しがちな人など、少しの変化を求めている人をターゲットにした。ダンス教室などにも告知はしたが、人数は多くなくとも、本当にこの事業を求めている人に届くよう、広報や印刷物の制作に工夫をした。

●企画実施にあたり苦労した点

出演には公募ワークショップへの参加が必須条件であったため、当初は出演者募集チラシのみ制作する予定だった。しかし宗像ユリックスダンス事業自体が認知されておらず、「出演者募集！」といっても簡単に集まらないことを悟り、公募ワークショップ専用チラシも制作。2種類のチラシが存在すること、出演者募集チラシだけ見た人へのワークショップの説明など受付窓口が混乱してしまった。

集客面も苦労した。前述のターゲット層に該当する人が出演者の半分を占めたことは広報の成果と言えるが、転居したばかりで知人が少ない、ダンスを見せるのが恥ずかしい、出演するホール職員からはお金をもらうのが申し訳ないなど、集客に消極的な考えの方が多かった。さらに舞台に立つことに慣れている人も、新型コロナウイルス感染症の影響で高齢の人に告知しづらい、遠方から呼びづらいなど勧誘を躊躇する場面が見られた。

●事業の成果と課題

広報・販促の展開（メディアへのリリース、市役所での現場販売、参加者特典の設定など）に関しては、一定の成果が得られたと感じる。さらに事業担当を2名にし、舞台制作と市民参加者対応に分けたことで作業の効率化が図れると共に、舞台制作に不慣れな分、不安な点や課題を相談し合いながら進めることが出来た点は大きかった。また当初は悩んだホール職員の出演だが、市民参加者や公演来場者からは、ホールが一丸となって地域振興に臨んでいると好評価をいただいた。さらに担当部署以外の財団内部からも本事業への理解と協力を得ることが出来た。ただクリエーション期間に入ると、市民参加者の体調への気遣いが不足していたり、事務連絡が不十分だったり、テクニカルとの意見のすり合わせなど、スムーズにいかないことも多かった。現場の状況を把握し、適切な対応ができるよう努力したい。

●今後の事業展開や展望

この3年で宗像市におけるダンス事業への需要の高まりを感じるかと言うと、正直なところわからない。ただ、アートやアートを通じたコミュニケーションを必要としている人は存在し、その出会いの場を提供することが公共ホールの存在意義の1つであり、アートとの出会いが人生を大きく変えるきっかけになることを、本事業を通して実感した。今後は「ユリックスダンス部」の定期的な活動や、小学校でのダンスアウトリーチ実施など、規模は小さくとも継続しながら、宗像市ならではのダンス事業の展開を探っていきたいと思う。

●この地域のダン活の特徴

宗像市は、福岡県の北東部、福岡市と北九州市の中間に位置する。ダン活事業は2018年度のAプロに続いて、2020年3月に予定されていたCプロが新型コロナウイルス感染症による影響で延期され、2020年度のBプロはダン活2年目となった。

Bプロのアーティストには、2年前のAプロと同じ長井江里奈さんを迎えてスタート。ホールの事業担当、宮崎さん・屋代さんと、長井さんとの関係性も良く、打合せから公演まで全ての進行が細やかに準備されスムーズに進んでいった。長井さんは、Aプロのインリーチでユリックス職員の皆さんと出会っていた経験から、宗像ユリックスでBプロを任されるなら、ぜひともユリックス職員が踊るパートを作りたいと提案。これを、宮崎さんはじめ職員の皆さんが「やってみます！」と快諾。こうして、ホールが初めて手掛けるダンスの市民参加作品に、ホールの職員が事業担当含め7名参加する稀に見る作品が生まれた。

クリエイションは、1回目と2回目の滞在の間を2か月空けてあり、その間に、宮崎さんの声掛けでBプロ公演のための自主練習が複数回行われた。この自主練習によって、市民参加者同士、ユリックス職員と市民参加者の交流も深まり、更には、長井さんが2回目の滞在で現地入りした際のクリエイションも滞りなく進行。公演日の4日前には通しができる。自主練習の期間、宮崎さんのリクエストに応じて、長井さんが的確に練習メニューを組み立てお知らせしたことが良かったと思う。

市民参加の出演者は、最終的に20-70代の8名の女性が集まった。打ち合わせ時、宮崎さんからは、宗像の地域性として優しい人が多く特に自己表現の機会が少ない40-60代の主婦層を対象にしたいと伺っていた。蓋をあけてみると何らかのダンスや舞台経験がある方が多く（初体験の人も数名）、表現する事に積極的な女性たちが宗像市と周辺の市から集まった。狙いとは少し違ったものの、長井さんが主婦に扮しネギを持って「あなたのダンスが見たい。」と問いかける公募チラシに呼応するかのようでもあった。多くの参加者がダンスをする場や、ダンスを通して仲間作りを切望されていて、できるだけ長く現場にいて練習したいと願う方が多く、結果として、12月本番前のクリエイション時は昼から晩までホールに参加者がいた。事業担当者やアーティストの並みならぬ情熱に加えて、こうした市民参加者の熱も加わり、濃密なクリエイションを経て『12月20日』が完成。コロナ禍で実施される市民参加公演とあって、周辺ホールの事業担当者や視察も含め、150名程度の観客に見ていただく事ができた。

●課題とこれからに向けて

初めて宗像に滞在し事業を見守る立場で、特に印象に残っているのが、ユリックス職員のダンスだ。これまでも、1-2人の事業担当職員がちよこっと出演というのは見た事があるが、他の職員も含め7名もの職員が市民参加の出演者と同じダンスのパートをちゃんと練習して一緒に踊るだけでなく、ひとりひとり自己紹介する事業部シーンまで用意されていた。そして、練習風景はいつも、とっても楽しそうで、さすがに汗をかいている様子が微笑ましかった。

職員みずから出演体験をする事で、おそらく市民参加やダンスの面白さがそれぞれの中で深まったと思う。ダンスも芸術も、本来こうやって育まれていくものだと思うし、ホール事業をこなしながら、出演を楽しむ職員の皆さんのバイタリティにも驚かされた。

市民参加者と立ち上げたユリックスダンス部が核になり、次は誰もが出入り自由なダンスのレジデントカンパニーのように存在すると面白いと思う。アーティストも時々迎えて。定期的なオリジナル公演の他に、アウトリーチや地域との連携事業を請け負うほか、市民と職員の垣根なしに人々が集う場となるといい。このように、何か従来通りのホール職員役を超えて、いろいろ楽しみながらダンスとおつきあいしていってくれたら、と願っている。

実施団体	鶴岡市
実施ホール	荘銀タクト鶴岡
実施期間	令和3年3月5日(金)～3月7日(日) 令和3年3月24日(水)～3月29日(月)
アーティスト等	アーティスト：中村蓉 クリエーションのためのアシスタント(共演者)：田花遥、望月寛斗 テクニカルスタッフ等：-
コーディネーター	坂田雄平

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 3月5日(金) 18:30～20:30、小学生以上、500円、33名、大ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『テクテクタクト ～タクトをおどる、ダンスをあるく～』

■ 3月28日(日) 15:00開演(14:15開場) *映像展示 10:00～17:00

■ 中村蓉、田花遥、望月寛斗、菊地将晃、大川春奈、風間重美

*映像展示：中村蓉、田花遥、望月寛斗、市民参加者23名、ホール職員8名

■ 一般500円、中学生以下無料

■ 荘銀タクト鶴岡 大ホール *映像展示：全館

■ 125名(映像展示：約170名)



全国で活躍するダンサー・中村蓉が鶴岡市民と、
荘銀タクト鶴岡と共に創り上げた作品を上演/上映します。
この日はタクト全体が作品の舞台になります。

2021年3月28日(日)

【映像展示】
会場▶エントランスホール
時間▶10:00～17:00
出演▶公募による市民ダンサー
※回廊型のエントランスホールは無料で
どなたでも自由にご覧いただけます。

【舞台公演】
会場▶大ホール
開場▶14:15 開演▶15:00
出演▶中村蓉、田花遥、望月寛斗、
市民ダンサー

舞台公演チケット【事前予約制・全席指定】
一般500円/中学生以下無料
鑑賞をご希望の方は荘銀タクト鶴岡までお問合せいただくか、
右記QRコードの予約フォームからお申込みください。
料金は当日支払いとなります。1/23:10:00 発行開始。
※未成年入場不可。 ※中学生以下の方も申込みが必要です。
※前日の空席状況により、事前予約をしていない方もご購入いただけます。

映像作品と舞台公演、
両方観るとはじめてください!

テクテクとタクトを歩いてみると
そこはアツキで楽しいダンスの世界。
タクトとダンスが出会うとき
いつもとちがう新しい景色が広がります。

振付・演出
中村蓉 Yo Nakamura
舞臺団大學生舞臺コンパニオンズを軸に、小野寺優二、近藤真平、宮内謙の創作活動に
加え、ダンスタクトを軸とし、独自のスタイルでダンスパフォーマンスを創出。アジア文化祭
式典(舞臺演出・振付)など国内外で上演。二期生オペラ『ジュリエット・チェザレ』やロック
バンドsumika『MAGIC』MVの振り付けも担当。2018年4月から2ヶ月間、舞臺に出演したメイフラン
ク・舞臺劇『イヴル』『DANCE IN CHINA』(演出・振付)はイヴル・舞臺に出演した舞臺劇『イヴル』
プロダクション10に演出された。他にダンサーとして活躍する『舞臺にカンパシ』MVにも出演。
(舞臺にカンパシ)と題し、歌謡に登場する人物になりきって踊るダンスワークショップを各地で
開催中。舞臺にカンパシプロジェクトは、舞臺ダンスプロジェクトを主催する舞臺劇制作
舞臺劇制作(2013)、第5回エールズ・舞臺コンパニオンズ舞臺劇制作(2016)などを担当。

予約・お問合せ先
荘銀タクト鶴岡 TEL:0235-24-5188
https://tact.tsuruoka.jp/
山形県鶴岡市長堀町11番61号(9:00～19:00)

！新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、マスクの着用や換気にご注意ください。
また、感染防止のため、観劇日時と観劇人数が変更になる場合がございます。その場合、
予めご了承ください。

【主催】荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会
【共催】一般財団法人地域創造(公民ホール現代ダンス活性化事業)

スケジュール

山形県鶴岡市／荘銀タクト鶴岡

	下見	
	11/5 (木)	11/6 (金)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		宣材撮影
12:00	集合	昼食
13:00	昼食・顔合せ	地域取材
14:00	ホール見学	
15:00	打合せ	
16:00	↓	↓
17:00	インリーチ	移動
18:00	↓	
19:00		
20:00	情報交換会	
21:00		
22:00		

実施期間①		
3/5 (金)	3/6 (土)	3/7 (日)
	クリエイション①	館内撮影
	↓	公募WS 撮影②
	↓	↓
集合		昼食
昼食		館内周回 映像撮影
打合せ	昼食	クリエイション②
撮影確認	地域映像撮影	↓
	↓	↓
録音		テクニカル 打ち合わせ
公募WS	↓	移動
↓	公募WS 撮影①	
	↓	

	実施期間②					
	3/24 (水)	3/25 (木)	3/26 (金)	3/27 (土)	3/28 (日)	3/29 (月)
9:00	仕込み	映像撮影				
10:00	↓	↓	映像展示確認			
11:00	↓	↓	明かりづくり	昼食	ゲネプロ	
12:00	集合			通し稽古	昼食・準備	移動
13:00	昼食	クリエイション④				
14:00	打合せ				開場	
15:00	アーティスト リハーサル		場当たり		公演	
16:00	↓	↓	↓	↓	↓	
17:00	↓	↓	↓	↓	フィードバック 交流会	
18:00	クリエイション③			↓	↓	
19:00		明かりづくり				
20:00	↓	↓	↓			
21:00	↓	↓	↓			
22:00						

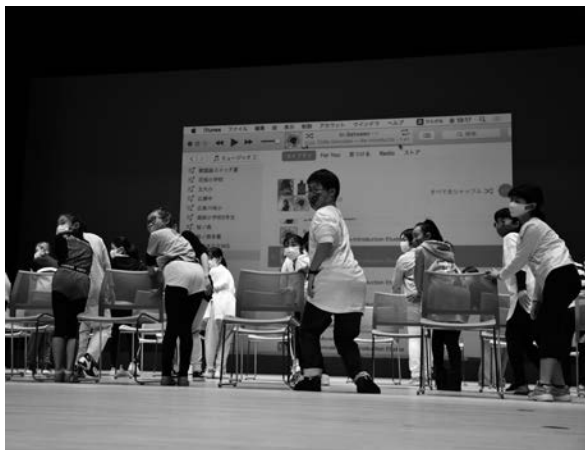
公募型ワークショップ

当館では昨年度の A プログラムで初めてコンテンポラリーダンスのワークショップを実施し、今年度の B プログラムでは参加者のステップアップの意味合いも込めワークショップ + 映像出演という公募形式をとった。受付開始から1ヵ月ほどで定員に達し、締切後に何名かお断りしなければならないなど予想をはるかに超える反響となった。また、経験は不問にしたが参加者の8割以上がヒップホップやチアダンス、バレエの経験者であり、市民のダンスにかける熱量の多さを実感した。

3月5日に行われたワークショップには映像出演者のほか、ワークショップのみの参加者も合わせ33名という定員(30名)を超える開催となった。初めは大ホールの大きい空間、初めてふれるダンスに参加者には緊張した様子が伺えたが、中村蓉さんの澁刺とした進行やコミュニケーションを通して、だんだんと動きが大きく大胆になっていくのが印象的だった。撮影日ごとのグループに分かれて行われたワークでは、早くもメンバー内で相談しながら取り組むなどチームとしてまとまっていく姿が心強く感じられた。

映像撮影は3月6日に10名、7日に13名の2チームに分かれて行った。ワークショップでそれぞれのチームの個性に接し、中村さんには振付演出や撮影場所について直前まで練り上げていただいた。そこへ参加者の熱のある参加姿勢が加わり、映像として発表するだけではもったいないような密度のある2作品が完成した(この2作品を含む4つのダンス映像作品を公演当日、館内各所に展示した)。

感染症対策としてワークショップや撮影ではマスク着用、1つのワークを終えるごとに手指をアルコール消毒するなど身体的・時間的な負荷もあるのではという不安の中での実施だったが、アーティストや参加者の快い協力もあり無事に終わることができた。皆さんに感謝の気持ちを伝えたい。



クリエイションの様子

●公募WS撮影①（3月6日）

ダンス経験者が特に多かった1つ目のチーム。前日に行われたWSでの振付や動きがどんどん作品として組み立てられてゆく。撮影場所であるエントランスには照明が仕込まれていつもと違う雰囲気に。参加者たちは興奮した面持ちだったものの、撮影が始まると一気に真剣な眼差しになり、美しい身体・光が溢れる映像を撮影することができた。

●公募WS撮影②（3月7日）

個性豊かな参加者が勢揃いしたチーム。そんな個性を余すところなく活かすべく中村さんは頭を悩ませているようにも思えた。その甲斐もあり「真夜中のタクト」をテーマにした作品は怪しげな雰囲気が漂いながらも何故だかクスリと笑ってしまう作品となった。

●舞台公演クリエイション（3月6・7日）

出演者の顔合わせののち、丁寧にウォームアップを行い早速クリエイションへ。地元出演者3名は全員ダンス経験者だけあって、難易度の高い振付も2時間程度でかたちとなり、とても頼もしい。時間が経つにつれてそれぞれのバックグラウンドが滲んでくるように見える瞬間があり、ここまで引き出せるのは中村さんのお人柄ならではの。

●地域映像撮影（3月6・7日）

舞台公演中に使用する映像の撮影を当館に近隣する旧藩校、市民ギャラリー、旧警察署、商店街の4カ所で行った。天気は持ちこたえたものの、冬のような寒さの中での撮影。かなりタイトなスケジュールの中、スピード感とこだわりを持って撮影に臨んでくださった。

●館内周回映像撮影（3月7日）

当館のエントランスが回廊空間となっており、中村さんが1周する間に他の舞台出演者が1人ずつ合流してくるといふもの。館内では初めてドローンを飛ばしながら撮影し、独特な形状をしている館内を余すところなくダンスとともに映像に収めた。



●展示映像撮影（3月25日）

東京組ダンサー3名の出演する映像作品は当館の搬出入口で撮影した。中村さんから逆再生の映像をつくと聞いた時は正直驚いたが、普通に撮影するだけでない心意気を見せてもらい嬉しくなった。スマートフォンで撮影したものをその場で逆再生しながら細かい部分まで確認と調整を何度も繰り返し、コミカルながらスタイリッシュな作品が完成した。

●展示映像確認（3月26日）

展示される映像を実際に歩き観客の導線を想定しながら確認した。展示の方法はホール職員が主にアイデアを出し設営したが、中村さんやコーディネーターから細かい部分までアドバイスをいただき、美術館で作品を展示しているようなエントランスとなった。

●舞台公演クリエーション（3月25日～）

リリウムや照明がほぼ仕込まれた状態で後半のクリエーションがスタート。期間が空くことで地元出演者は振付が身体から抜けていないだろうか、と少し心配していたが逆に上達していたことに熱意を改めて感じた。新しい振付も事前に映像で送っていたこともあり難くこなされていて、スムーズかつ濃密なクリエーションが進行していった。それぞれのシーンが出来上がる度に動画を撮影し、YouTubeにアップ・シェアして出演者がすぐに確認できていたのは現代ならではのクリエーションの仕方だったと思う。

●通しリハーサル（3月26・27日）

最後の2日間で計3回の通しリハーサルを行った。初めは流れを追うのに精いっぱいだったように見えたが、回を重ねるごとに動きが洗練されてゆくのが目に見えた。通しを繰り返すなかで出てきた不明瞭な部分には中村さんの的確な指導が入り、どんどん作品としてブラッシュアップされてゆく。本番前日は出演者の身体を休めるためにも19時半退館。



公演

【Dance!Dance!TACT!】オリジナルダンス公演『テクテクタクト ～タクトをおどる、ダンスをあるく～』



本公演は当館の特色である大ホールを取り囲む回廊空間を活用した〈映像展示〉と、大ホールでの〈舞台公演〉の2つが組み合わさった作品である。〈映像展示〉はエントランス・練習室・楽屋通路・搬出入口の4カ所に、公募ワークショップ参加者・舞台公演出演者・ホール職員がそれぞれ出演する映像をプロジェクターで投影展示した。普段は関係者しか入ることのできない楽屋エリアや搬出入口なども開放し、ダンスだけではなく建築としてのホールも味わうことのできる時間となった。映像展示は無料開放ということもあり、当日たまたま来館して映像を観ていく方も見受けられたのは狙いどおりであった。

〈舞台公演〉は中村蓉さんをはじめとする東京組3人、鶴岡在住ダンサー3名の計6名での公演。当ホールに隣接する藩校『致道館』で学ばれてきた庄内論語から着想を得た作品となり、地元小学生の朗読や美しいタイポグラフィのような文字投影など、作品のいたるところに論語が散りばめられた。孔子の教えは現代でダンスとなり、生きることや踊ることを改めて考えさせてくれる舞台がこの鶴岡で生まれた。また地元の映像作家と制作した近隣施設や商店街でのダンス映像も、生身と映像を行き来する身体を効果的に見せていた。

荘銀タクト鶴岡でコンテンポラリーダンスの作品を創作・上演することは初めての挑戦であり、市民性としてよく言われている「新しいものにはなるべく関わらない」部分がどこまで影響するか懸念があったが、結果的に想定を上回る入場者数となり、今後ダンス事業を実施していく上で大きな自信となった。

●来場者アンケートより（感想）

- ・初めてのタクトのチャレンジに、市民ダンサーとして、私自身もチャレンジできたことはいい思い出になりました。どんどん新しい風を吹かせて風通しのいいタクトであってほしいと思います。ありがとうございました。
- ・出演者皆さんひとつの作品を楽しみながら一生懸命に踊っている姿に感動しました。短い時間で心1つになったたまものだったと思います。今回のファーストステージだけでなく、2回目も期待しています。
- ・正直60代の私には、よくわかりませんでした。今時なんだろうと思いました。
- ・タクト全体がステージとしてあり、初めてタクトを訪れ館内をほぼ見学することもでき、ワクワクした時間をすごさていただきました。踊りを通して、生きることと死ぬこと希望と絶望、楽しみと悲しみ、いろいろなものがつたわってきました。生きることは混沌だと伝わってきました。
- ・遠方に行けない中で、「ここはどこ？」というようなすてきな空間でした。非日常な時間をありがとうございました。
- ・コンテンポラリーダンスは感じるものだなあと実感。鶴岡の建物を活かしたダンスの映像も心打たれた。

●この事業への応募動機

当館は2018年3月にオープンした比較的新しいホールであり、コンテンポラリーダンスの事業は昨年度のAプログラムが初の開催であった。アウトリーチとワークショップによりダンス事業に対する手ごたえを感じ、さらに市民とホールの関係性を近くするべくBプログラムに応募した。また荘銀タクト鶴岡を起点とした市民参加型の作品創作を行うことは初めてであり、企画制作のノウハウ獲得を目指した。

●事業のねらいと企画のポイント

「新しいダンス×新しいホール」を主題にし、市民が「新しい」と出会う場をつくることを狙いとした。市民から気軽に創作に参加してほしいという思いから映像作品の出演者を公募することとした。感染症対策のため首都圏からのアーティストと接触する時間を減らす目的もあったが(ワークショップと撮影で合計4時間)、これが功を奏したのか募集開始から1ヵ月ほどで定員となったのは想定以上の反響であった。また、舞台公演の市民参加者については、荘銀タクト鶴岡で初めて上演されるコンテンポラリーダンス公演はインパクトのあるクオリティの高いものを発信したいという思いから市内在住のダンスインストラクター等、ダンス経験のある方々に声をかける形で選定した。

●企画実施にあたり苦労した点

まずはなんといっても新型コロナウイルス感染症の影響である。市の主催事業は感染症対策本部の判定会議に開催可否を諮らなければならず、下見を行う前から慎重に感染症対策について検討を重ねた。開催自体に関わることだったが、判定会議での結果が出るまで関係者の気をもませてしまったのは申し訳なく思っている。また地元の舞台出演者の選定も声をかけるタイミングが遅れたのに加え、中高生への出演交渉も行って学校関係の外部行事参加への制限などもあり難航。創作が始まる直前の決定となった。後半クリエーションが始まる直前で山形県が独自の緊急事態宣言を発出したが、実施に影響がなかったのは幸いであった。

●事業の成果と課題

公募を映像出演者に絞ったことでダンスへの参加需要を見出すことができたのはこれからの事業展開を行ううえで大きな手掛かりとなった。また結果的に映像に出演した参加者が、当日は観客として来場できたことも想定以上の集客につながったと考える。

課題としては作品を創り出すことに意識が向きアーティスト・出演者のケアに重きを置いてしまったことが挙げられる。アーティストからは創作環境が良かったと言って頂けたが、その反面事前の広報や当日運営に目を配ることができず、来場者の方々に十分な気遣いができなかったことが悔やまれる。当日も映像展示→舞台公演という流れを想定して順路を決めたが、もっと分かりやすく自由に鑑賞していただけるような仕組み・対応があったはずである。観客側の立場で考える視点の必要性を痛感している。

●今後の事業展開や展望

今回の事業を通し、近隣でありながらもこれまで関わりが少なかった施設や商店街、市内で活動しているダンサーや映像作家など、今後へつながる地域資源の出会いが多くあった。このつながりを活かし、ただ鑑賞事業を提供するだけではない、鶴岡ならではのホールの在り方を考えるきっかけとなった。また令和3年度はCプログラムの開催を予定しているので、今回おろそかになっていた広報面や当日運営などの課題点を明確にしたうえで取り組んでいきたい。

●この地域のダン活の特徴

鶴岡市、荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）でのBプログラムは、2021年3月に開催された。本番日は3月28日（日）、新型コロナウイルス感染症が拡大し、山形県・山形市が独自の緊急事態宣言を発令する中での公演となった。鶴岡市は日本海に面し、城下町として歴史的建造物も多く残る。荘銀タクト鶴岡は、2018年にオープン。周辺の山並みと歴史的建造物に呼応する外観に解放的な内装と、特色あるデザインの建物だ。今回はそんなタクトの全館を使用した回遊型の市民参加ダンス公演を企画したいという担当者の思いから企画がスタートした。感染症対策を考える上では、回遊型の公演は、観客のソーシャルディスタンスの管理が難しくハードルは高い。なにより首都圏のアーティストと市民が共演するBプログラム自体、どのような感染症対策の上で開催すべきなのかなど、企画当初から頭を悩ませる課題は少なくなかった。今回はコロナ禍の「市民参加」及び「施設回遊」をどのように行なったのかという点から、公演を振り返りたい。まず公演への市民参加の方法としては（1）映像への参加または（2）本番でのライブ参加を選択できるスタイルとなっている。映像での参加枠を設けることで、大人数が長時間接触する場面を減らしながら、市民参加の機会を担保。逆にライブで市民参加では少人数で行うことで感染症対策を取りやすい環境を整えていた。（1）については定員を超える市民が集まり、（2）はダンス経験者3人の参加となった。次に施設回遊という点だが、これは施設各所にダンス映像を展示し、ホワイエから搬入口まで、普段は足を運ぶことない施設の裏側も限なく歩き、鑑賞できるスタイルを採用した。

公演は中村蓉さんが地域素材である「庄内論語」を取り入れたダンス作品として構成。作品内でも映像が使用されていたが、それがかえって舞台での身体の躍動と息遣いを際出させる作品となっていた。また少人数のクリエイションは充実し、作品強度の高い市民参加公演になっていたように思う。

●課題とこれからに向けて

担当者のみならず、全スタッフが準備から本番まで参加しているのではないかと思わせるような充実したチームワークで今回の事業は実施されていた。施設に展示するダンス映像にも職員が出演。当日もスタッフの等身大パネルが作成され、周遊時の案内などにも使われるなど、施設スタッフ自らが手がける遊び心が、非常に魅力的に感じられる運営だった。作品についてもテクニカルスタッフが必要なセクションにきちんと配置されているほか、準備段階から積極的な提案があり、短い期間でも充実したクリエイションとなっていたのではないかと思う。また今回は映像製作のNPOも参加。初の共同作業とのことだったが、事業の中でコミュニケーションや信頼関係もきちんと築かれていたように感じた。タクトは現在、直営の施設だが、2021年度からは指定管理となる。市の職員が引き上げることの弊害は少なくないと思うが、タクトの財産はこのチームワークではないかと思う。チームワークの輪を施設のみならず、多様な市民・地域団体にも広げていくことで他地域にはない文化施設としての強みが生まれるのではないだろうか。その可能性を強く感じるダン活であった。またこうした輪づくりは作品製作といった創造事業を背景に生まれる部分もある。今回の成果を発展させるという意味でも、創造的でみんなが一丸となって取り組めるような新たな企画づくりにも期待したい。

Cプログラム

(公演プログラム)

スケジュール

広島県三次市／三次市民ホール きりり

	下見	
	8/13 (木)	8/14 (金)
9:00		下見・打合せ
10:00	広島空港集合	↓
11:00	移動	↓
12:00	昼食	昼食
13:00	市内視察	宣材写真 動画撮影
14:00	↓	↓
15:00	↓	↓
16:00	ホール下見	空港へ移動
17:00	↓	
18:00	ホテル	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
打合せ・仕込み	準備	準備	準備
↓	「UMU」 場当たり	「UMU」 テクニカルリハ	公募 WS
↓	↓	部分リハ	↓
昼食	↓	↓	フィードバック
シユート	昼食	昼食	↓
↓	「笑う額縁」 場当たり	開場	広島駅へ移動
↓	↓	公演	
明かり作り	↓	↓	
↓	↓	仕込み替え	
夕食	夕食	↓	
明かりチェック	ゲネプロ	退館	
↓	↓		
↓	↓		
退館	退館		

※ 18日移動日

公募型ワークショップ

三次市民ホールでのコンテンポラリーダンスワークショップは昨年のAプログラムに引き続き、今回で2回目の実施となりました。年間を通して数多くのワークショップを開催することが難しい状況を考慮し、幅広い世代の市民参加を願い、対象者を小学生以上で定員20名としました。昨年のワークショップは参加費を無料にしましたが、継続した事業にしていきたいという思いもあり参加費を500円にしました。また、交通の便が悪い地域性から平日夜間の開催では参加者が集まりにくいこともあり日曜日午前中の開催としました。ダン活とは別枠で、9月末に北尾亘さんの小・中学校でのアウトリーチを予定していましたが新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止にしました。アウトリーチを通して子どもたちに興味・関心をもたせ、ワークショップへの参加に繋げたいと考えていましたが、広報戦略の見直しをせざるを得ない状況になりました。また、昨年のワークショップ参加者のリピーターを期待しましたが、残念ながら参加を得ることはできませんでした。ホール関係者や知人等に声掛けを続け、最終的に小学2年生から60代までの13名の参加がありました。

ワークショップ前半は自己紹介や感染症対策についての説明から始まり、ウォーミングアップ、ストレッチ、体を楽ませるようなポップな動き（ランニングマン等）を取り入れたダンスを踊りました。後半は手のひらにサインペンをのせて落とさないように自分自身の体と向きあうワーク。ペンの重さや体の動きの感覚を把握した後は、参加者は思い思いに空想のペンを色々な体の部位にのせて自由な発想の体の動きに挑戦しました。その後、「朝の目覚め～歯磨き」までの朝の日常の動きを取り入れたダンスを踊りました。無意識に毎日規則的に繰り返している動作がダンスになり、参加者からは「とても楽しかった。」という声や、ペアやグループでのワークは実施できませんでしたが「ちょうど良い感染症対策で窮屈でもなく、普段ダンスや運動をしない者にとっても参加しやすかった。」と満足度の高いワークショップになりました。



公演

北尾亘ダンス公演『UMU - うむ -』『笑う額縁』



当初は大ホールの舞台上に客席を作り間近でダンスを鑑賞していただく案も検討しましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、大ホールの客席に座ってもらう形で実施することに決めました。また、今回のダン活を通して新しい客層を開拓する為、3歳以上から入場可能としファミリー席を設けることで幅広い世代が鑑賞できる公演としました。市民にとっては初めてコンテンポラリーダンスを鑑賞する機会という事もあり、一つの作品でコンテンポラリーダンスのイメージを固定化してはいけないと思い、2作品を上演していただくことにしました。トークコーナーは地元のダンスの先生をゲストに迎えて実施したいと考えていましたが、コロナ禍ということもあり事業担当者と北尾さんの2人で1作品目と2作品目の間に実施しました。トークコーナーを通して北尾亘さんの人柄やコンテンポラリーダンスの魅力を、より観客に伝えることが出来たと思っています。ただ、2作品にしたためにタイトなスケジュールになってしまい、アーティストやスタッフに負担をかけてしまったのですが、観客はクオリティの高い2作品を鑑賞することができ、とても満足していただけたのではないかと思います。『UMU - うむ -』での北尾亘さんの存在感、空間を制覇する動き、映像との共演はとても見応えがあり、また、『笑う額縁』はコミカルな要素を含み、思わずクスッと笑ってしまう場面もありました。集客面や公演制作において様々な課題が見えてきましたが、通常の買取公演では体験することできない貴重な経験となりました。

●来場者アンケートより（感想）

- ・ダンスを習っているから、これからも頑張りたいと思いました。
- ・すごく感動しました。不思議な世界へトリップしました。すばらしい。
- ・楽しかったです。広島でももっとコンテンポラリーダンスが盛んになりますように。
- ・とてもエネルギーで体の中がとっとうずうずして心の中が躍りました。ありがとうございます。体の中から踊っている、踊りの空気感が伝わってきて楽しかったです。
- ・三次が芸術やダンスで満たされるようにお祈りしています。広島市からは遠いのですが、また時間があれば参加させてください。素敵な公演でした。明日のワークショップに参加できないのが残念です。
- ・北尾さんの世界観を感じられて、自分も見つめられ、貴重な時間を過ごせることができました。今の窮屈な時代に、自由な思い、自由な感覚がとても心地よい時間でした。素敵な時間をありがとうございました。
- ・今年広島に引っ越してきて広島でコンテンポラリーダンスができる場所がないか探しているところですが、なかなかそういったスタジオがありませんでした。そんな中このようなダンス公演を見る機会があり、とてもうれしいです。舞台上に色々な世界が広がりとっても楽しかったです。特に映像とダンスのコラボはととても興味深かったです。また見たいし、やってみたら楽しいだろうなと思った。

●この事業への応募動機

三次市民ホールは中山間地域に位置し、都会のように様々なジャンルの芸術文化を鑑賞・体験できる機会は少なく、また、交通の便が悪く気軽に「公演に出かける」「美術館を訪れる」という環境ではない地域になります。市民の方々に色々なジャンルの芸術に出会う機会を提供する必要性を感じる中で、このダン活を通してコンテンポラリーダンスの普及、新しい客層の開拓・育成、また企画・制作のノウハウを学びたいと考え応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

三次市では、ヒップポップ系のダンス教室は多く存在していますが、主に個人経営の小規模ダンス教室か、大手ダンススクール経営の三次教室の2パターンになります。教室の発表会をする場合、都市部での開催が多く、三次市民ホールでの開催は無く、今までダンス教室との繋がりはありませんでした。また、三次市民ホールではバレエ以外のダンス公演を開催したことが無く、今回のCプログラムでダンス教室関係者との新たな交流を築き、自由な身体表現のコンテンポラリーダンスを、ダンス関係者やダンスに興味のある市民に紹介できる機会になればと考えました。

●企画実施にあたり苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響で、4月に予定していた下見が8月中旬になってしまい、ダン活を開催するまでの広報期間が短くなってしまいました。チラシが完成した9月末より本格的に広報活動をスタートさせましたが、公演・ワークショップ共に11月中旬になるまで大きな動きが見られず大変苦戦しました。今年度は他館の催し物も少なくチラシの挟み込みができず、色々な団体にチラシを配ってもらったり、ハワイエに北尾亘さんのバナーを飾りライトアップしたり、YouTubeを活用した動画宣伝など予算の範囲内で行える様々な宣伝方法に挑戦しました。公演が近づいてきた11月からはダンスに興味のありそうな個人・団体を訪ねて、事業意義や内容を説明しましたが、なかなか参加の確保には繋がっていませんでした。

●事業の成果と課題

公演やワークショップに参加してくれた方の評価は高かったのですが、ダンス教室関係者の参加が少なく、また、昨年のAプログラムから継続した成果と捉えると、昨年のワークショップ参加者がリピーターに繋がらなかったのが残念でした。しかしながら、コロナ禍の中でも積極的に生徒さんにお声掛けをしていただいたダンス教室の先生や、チラシ配布に協力いただいた団体との新しい関係性を築くことが出来ました。ただ、折角できた人間関係をどのようにキープしていくのか（出会いもあれば、引越などによる別れもあり）、ホールにとっての理解者・協力者を増やし、良好な関係性を継続していくのは大変だと感じました。

また、チラシ・ポスターのデザインや広報活動において、事前に作品を熟知しておく必要性を感じました。作品の素晴らしさや、作品に興味を持ってもらえるような広報ができていれば、さらに集客に繋がっていたのではないかと思います。

●今後の事業展開や展望

今回、ダン活を無事に開催できたことが何より大きな成果でした。予算的に毎年、ダンス公演を開催することは難しいのですが、毎年継続的にアウトリーチやワークショップを実施しながら、次のBプログラムに繋げていきたいと考えています。長期的な視点を持ちながら、『コンテンポラリーダンスに出会う・観る・体験する・創作する』等の様々な角度から、市民にとってより良いダンスプログラムを提供できるように努めていきたいと考えています。

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：北尾亘（前年度：中村蓉 [Aプロ]）

公演観客数：58名（購入者分を含めると61名）

アンケート回収数：45枚

公募ワークショップ：13名（8才～60代）

三次市は広島駅から車で3時間ほど北上したエリアにあり、いくつもの川に囲まれ、晩秋から春の初めごろまでは深い霧が立ち込めることで有名な街。「三次市民ホール きりり」は青木淳により設計され、水害も考慮されて地上から5m高い場所が1Fとなる作りで、また、たくさんの窓に囲まれ太陽の光がたっぷりと入ってくる気持ちのよいホールだ。

北尾氏によるCプロの上演作品は2作品、前年度に私が担当した北九州芸術劇場とサントミューゼ上田で発表した『UMU』と、北尾氏の代表作『笑う額縁』。ホール担当者からの「親しみやすい作品を上演したい」という要望から、ソロ作品とグループ作品を2つ見せることになった。

コロナ禍対策として、2席おきに指定席として販売することになったが、小さなお子さま連れのために、ファミリーセット券を設定し、一家族が並びで座れるように工夫をするなど、きめ細やかな配慮がなされていた。

北尾氏はこれまでのダン活でも、2作品上演の際は作品と作品の間にトークを行うという、両作品に出演するアーティストが行うには難易度の高い技を実施してくれている。今回の三次公演でも中間トークを行い、観客の関心を途切れさせることなく、後半の作品へと誘う手法は、何度拝見しても見事だ。

ちなみに今回後半に上演したレパートリー作品『笑う額縁』は元々4名のダンサーによるもの。しかしダン活Cプロのルールに基づき、同行出演者の制限があることで、3名バージョンに創り替え、ある一部分を劇場担当者に出演してもらい、というシーンを加えた。メインの担当者であった前岡氏は、突然の依頼にかなり緊張されたと思うが、客席から見たそのお姿はとても堂々とされていて、ダン活らしい新しい魅力が今後も各地でのバージョンが生み出されるかと想像すると、それだけでワクワクした気持ちになったのは関わったダン活関係者の中でも私だけではないと思う。

公募ワークショップは全体のスケジュールを鑑み、公演翌日に開催した。替えのマスクを用意し、各自の持ち物を置く場所を指定するなど、感染症対策を万全にし、参加者数も13名と少なめであったが、人数的には各参加者とのコミュニケーションを取れるベストな人数だったといえる。但しマスクは曲者で、初めてお会いする方のお顔の半分が見えないことは、短時間で個人を記憶することは難しく、また満足度が表情からはかれず、よそよそしさが出てしまう。その中でも3人の子どもたちの心から楽しんでいる様子は、大人の参加者たちの心もほぐし、全体的には暖かい雰囲気ワークショップとなった。

●課題とこれからに向けて

ダン活研修会も担当者2名で参加するなど、課題の共有や、実施に向けて役割分担がきちんとなされていたことが、今回の公演の成功の秘訣だったといえる。2人の担当者、前岡氏と角田氏がそれぞれの専門分野を担いつつも、お互いの大変な部分を補い、その大変さを理解していることも、理想的な仕事環境であり羨ましい限り。事業後の振り返りでも「もっとこうしてみればよかった」という内容が多く、向上心の高さに頭が下がる思いだった。このような姿勢が、アンケート回収率の高さなどにも繋がっているのだろう。また、コロナ禍の影響の中、すぐさまYoutubeチャンネルをご自身たちで準備し発信していく積極さは、これからの様々な事業実施に必ず役に立つものである。指定管理者が代わり、しばらく落ち着いた環境だと思うが、三次市だからできるダンス事業を見つけ出し、継続していただきたいと切に願う。

実施団体	ながす未来館指定管理者 株式会社舞台風
実施ホール	ながす未来館
実施期間	令和2年11月19日(木)～11月22日(日)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 共演者：塩谷智司、小田直哉 テクニカルスタッフ等：阿蘇 尊
コーディネーター	中富勝裕

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 11月21日(土) 16:30～18:30、小学生以上(ワークショップ付き観覧チケット購入者のみ)、無料、19名、ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『ヒメゴトキンギョ』
- 11月21日(土) 15:00開演(14:00開場)
- 田村一行、塩谷智司、小田直哉
- 一般1,000円、学生500円(当日は各500円増)
- ながす未来館 ホール
- 103名



スケジュール

熊本県長洲町／ながす未来館

	下見	
	8/26 (水)	8/27 (木)
9:00		町内視察 告知写真撮影
10:00		↓
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合	打合せ
14:00	ホール下見 打合せ	↓
15:00	↓	↓
16:00		解散
17:00	↓	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
打合せ	明かり作り②	準備・アップ	フィードバック
照明・舞台仕込み	↓	通し稽古	↓
↓	↓	ダメ出し	帰京
昼食	昼食	最終チェック 食事	
照明・音響仕込み	場当たり	公演準備	
↓	↓	開場	
↓	↓	本番	
位置決め	手直し	公募 WS	
照明シユート	食事	↓	
↓	テクニカル リハーサル		
食事	ダメ出し	撤去・掃除	
明かり作り①	ゲネプロ	反省・交流会	
↓	手直し		
退館	退館		

※ 18日移動日

公募型ワークショップ

平成30年度Aプログラム、令和元年度Bプログラムを実施しワークショップなど参加人数も増えてきており、ダン活の取り組みで少しずつダンスワークショップに対する認知度やダンスそのものへの考え方が変わって来ているように思います。Aプロ、Bプロと続けての参加、また初めて参加する方など小学3年生～70歳代までの19名で開催となりました。本年度はアーティストの希望もあり初めて公演後での開催ということで、参加者のチケットは公演入場付きのチケットとなりました。新型コロナウイルス感染拡大防止ということもあり人数制限やマスクを着用したままでの開催となり参加者は不便さを強いられましたが、少し激しく動いたあとはアーティストの気遣いで休憩や映像の紹介など時間をとりながらの開催でした。本番を見た後での開催になったことで参加者は最初から生き生きしており、さらに興味と公演の素晴らしさが伝わったようで結果として公演後の開催にして良かったと思います。日頃身の回りの方以外の人と交流するきっかけや、「誰かの前で表現する・踊る＝羞恥心」という感情が、実際体験してみる事で実は思い込みで「実際に参加してみたら面白い！」など、自分自身の「新たな発見」にそれぞれつながればいいなと思います。終了後の感想アンケートでも、「力を抜く・空っぽになる」事の難しさや出来た時の楽しさが良かったと多くの方が答えています。ワークショップのコンセプトである「コミュニケーションスキルの向上」という軸があって、自分の考えや思いを、カラダ全部を使い、誰かと一緒に「表現する」「何かを伝える」事で、人と人の結びつきを強め、今後お互いがいい影響・いい刺激となり、自らを解放し、お互いを認め合う機会になったと思います。



公演

舞踏 長洲風土記『ヒメゴトキンギョ』



今年度で3年目のダン活となるCプログラムであり地域や年齢・男女問わず多くの方々に現代舞踏を鑑賞してもらえるよう、また特色を出す為にタイトルを長洲風土記『ヒメゴトキンギョ』とし、随所に長洲町の民話・伝統など織り込み、身近な題材で話をつないでいくのはさすがでした。さらに今回は従来の舞踏公演とは少し違いセリフや朗読など珍しい演出によって、より分かりやすい作品で最後は田村作品らしくオチがあり、なるほどと思わせる素晴らしい内容でした。ホールにある舞台備品で舞台セットを組み、それを上手く組み合わせる事でシーンが展開して行く。時には踊る舞台に、時には朗読の台座にと変化があり、そのように見せてしまうことも見事でした。新型コロナウイルスの影響もあり、下見での打ち合わせが遅れ、HP・町広報紙・地元新聞社・フリーペーパー・地元文化団体への促し・SNS・近隣地区及び劇場へのポスター・チラシなど告知はしたものの、公演日が迫るにつれて売れ行きが伸びて来たにもかかわらず100名と少ししか集客できなかった事を申し訳なく思います。地元にながらも知らない民話などもあり観客も改めて再認識したようです。

●来場者アンケートより（感想）

- ・久しぶりに本物の芸術に触れることが出来た。
- ・独創的な内容で演技が凄かった。
- ・初めて見たが、楽しくまた感動もあり見て良かった。
- ・とても素晴らしいと思いました。また来年も見たいと思う。
- ・踊りと音楽の融合が素晴らしかったです。背中の踊りはすごく感動しました。
- ・熊本の小さな町に2回も来ていただいて感激です。世界にどっぷり浸かってしまいました。人の体って無限ですねー。
- ・クネクネ踊りの不思議なものを見るようで楽しめました。音楽がとても心地いいです。
- ・怖いところもあったけど面白いところもあったので楽しかったです。
- ・背中が凄かった。
- ・普段なかなか見る事のできない舞台を目の前で鑑賞でき感動しました。体の動き、動作の面白さ、とても楽しめました。

●この事業への応募動機

平成30年度Aプログラム、令和元年度Bプログラムを実施しワークショップなど参加人数も増えてきており、ダン活の取り組みで少しずつコンテンポラリーダンスの認知度が上がってきたと考えています。本年度は本格的な公演をすることで、さらに興味と素晴らしさを伝えると共に、地域の年齢・男女問わずそれぞれが参加している趣味の枠を超え、町民を中心に多くの方々に現代舞踏を鑑賞してもらい、今後も表現・コミュニケーション事業、またコンテンポラリーダンス・現代舞踏の広がり認知UP事業などを企画し、その活動に活かしていきたいと応募しました。

●事業のねらいと企画のポイント

公演の鑑賞はもとより、公演後に行うワークショップでは、学校や職場以外の人と交流するきっかけや「誰かの前で表現する・踊る＝羞恥心」というマイナスな感情が、実際体験してみる事で実は思い込みで「実際に参加してみたら楽しい！」など、自分自身の「新たな発見」につながればよいなと思いました。ワークショップのコンセプトである「コミュニケーションスキルの向上」という軸があって、自分の考えや思いを、カラダ全部を使い、誰かと一緒に「表現する」「何かを伝える」事で、人と人との結びつきを強め、お互いが良い影響・良い刺激となり、自らを解放し、多様性を認め合う機会になってほしいと考えました。

●企画実施にあたり苦労した点

今年度の公演は、コロナ禍において実施か延期または中止か、まずはそこからのスタートでした。感染症の先が見えない為、当館内においても意見が割れましたが、十分話し合いの上開催の決断でした。ただコロナ禍の影響により下見の打ち合わせを遅らせるほかなく、広報・HPなどの告知はまず文字のみ、ポスターもチラシも無いままチケットを先行発売しました。周知しきれなかったところも多く残念です。ワークショップも申し込み後の当日キャンセルもあり、集客に関して心残りです。

●事業の成果と課題

劇場舞台スタッフで行うダンス・舞踏公演（アーティストのレパトリー作品）は、自主事業で取り組むことが初めてでしたが、気さくなアーティストとのやり取りでテクニカルな部分は希望に添えた形で終えたと自負しています。また、初めて舞踏を見る観客も多く、体だけで表現する公演に驚きと感動を覚えたようです。子ども達もすごいという事は伝わったように思います。長洲で舞踏を見たと言うのが本人達の1番の財産になったようです。また見たいと言う感想も多く、色々な表現の形があり、その素晴らしさが伝わっているように思います。前年度Bプログラムでの反省点としてホワイエ受付と舞台の連絡体制が悪く細部に渡り迷惑をかけました。今年度は人員を増やし、また開演前と終演後にはアナウンスを直接緞帳前に出て、感染予防・アンケート記入・動線・座席の説明などしました。しかしながら、チケットへの連絡先の事前記入など末端まで届いてなかったようでほとんどの方が当日の記入となり機の準備など手間取り混雑しました。ただ、通常30分前の開場を1時間前としたため間に合わない方は出なかったようで良かったと思います。チケットのもぎりがいつの間にか手渡しになってしまったりと、まだ人員不足と担当者同士の打ち合わせ不足になってしまいました。次回は、今回行わなかったホール入り口のシュミレーションをこういう時だからこそ是非行うべきだと感じました。

●今後の事業展開や展望

いつもダン活に参加している方や、初めて参加した方も増え、広がりが見え始めていますので、今後はコミュニケーションや自己表現の育成としてダン活で活動することによりできたアーティスト・参加者とのつながりを生かし、ダンス・舞踏を活用したアウトリーチ・ワークショップを中心にアーティストの作品鑑賞機会を増やしていこうと考えています。

●この地域のダン活の特徴

熊本県の北西部、福岡県境に位置する長洲町。電車で熊本市内から40分程度、福岡空港からは90分程度、また有明海に面しており、長崎県（雲仙市）からフェリーで最短45分でのアクセスが可能。人口規模は約16,000人。造船業やサッシ業をはじめ、多くの企業を有する工業の町とともに、ミニトマトやあさり、海苔の養殖など農業や漁業も盛んである。そして、この町の最大の特徴は、全国有数の金魚の生産を誇り、大小20軒以上の養魚場や全国唯一の金魚専門水族館「金魚の館」を有する。

ながす未来館は、ダンスや身体表現の魅力を伝える公演にすることを主眼におき、集大成となるCプログラムを実施した。特にワークショップにおいては、コミュニケーションスキルの向上、参加者自身の新たな発見、共に表現するという点を重要視し、今後の事業の展開も見据えた。

Cプログラムでは、アーティストのレパートリー作品の上演を条件の1つとしているが、田村一行が上演する作品は、各地の歴史や特徴などを基軸にする『風土記』。今回は、下見で広報宣伝用の写真撮影とともに行ったフィールドワークで得た長洲の歴史や民謡、そして長洲の象徴となる金魚を織り交ぜ、テキスト（セリフ）には熊本弁で演出した『舞踏 長洲風土記 ヒメゴトキンギョ』を上演。多層的な演出で、観客は作品の世界観、舞踏の魅力に惹きこまれていた。

ワークショップは、子どもの参加が多かったが、田村一行の言葉の選択や話し方により、動きのイメージの着重点が引き出されるなど、年齢関係なく、それぞれの感性で取り組むことができ、田村一行というアーティストの魅力をここでもいかに発揮していた。

ポスト・パフォーマンス・ワークショップというべき、公演後にワークショップを実施したことにより、小屋入り後のリハーサルの時間を割くことなく、より作品に集中する時間が確保できる利点は大きい。アーティストは公演の集中度をそのままに、お客さんの雰囲気を感じながらできること、参加者は動きのイメージやアーティストの特徴を公演で観て、参加するため、より解像度の高いワークショップを展開できた。

●課題とこれからに向けて

前回、Bプログラムで課題とされていた公演本番でのスタッフ間の情報共有や進行確認については、改善に向けた工夫も見られたが、事業全体を通してのスタッフ間での情報共有、役割を分担して事業を進めるやり方をもう一度見直して欲しい。こういったコロナ禍で主催事業等を組めず、人材育成が難しい状況だからこそ、スタッフが経験を積むための公演本番を見立てた研修事業を実施するなど、いろいろと検討できるのではないかな。ながす未来館の環境に即したマニュアルのカスタマイズや、事業コンセプトや事業担当者の熱意と熱量、全体像を伝えるためのロードマップなどを共有し、スタッフ一人ひとりの意見を取り入れることで、今まで気づかなかった新しいアイデアも生まれてくるかもしれない。またこの地域ならではのおもてなしもあると思うが、感染予防対策を含め、新たなおもてなしなど、館として考える状況にある。非常時の対応も含め、来場される方が安心して公演を観ることができる環境を考えることも重要である。

ダンスを通してのコミュニケーションを重要視し、今後の事業展開をダンスワークショップ、アウトリーチは重要と考えているが、そこに加えて、ぜひこれまでのダン活の実施経験を生かして、ダンス事業には、アーティストの魅力、舞台芸術の多様性を伝える公演も開催して欲しい。今回のCプログラムでは9割近くの方がアンケートの回答をしていた。しっかりとアンケートの分析を行い、人脈ネットワークが築かれているこの地域ならではの新しい舞台芸術ファン、ながす未来館の観客に向けて、地域に根ざした今後のダンス事業や広報などが検討できるのではないだろうか。

実施団体	公益財団法人神戸市民文化振興財団
実施ホール	神戸アートビレッジセンター
実施期間	令和3年1月14日(木)～1月17日(日)
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈 共演者：北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等：森規幸(照明)
コーディネーター	小岩秀太郎

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 1月16日(土) 14:00～16:00、中学生以上、無料、13名、KAVCホール

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 「第三回 新開地カブキモノ大興行 ～緊急事態 ver.「それでも、踊る!」～」
- 1月17日(日) 13:30開演(13:00開場)
- 長井江里奈、鈴木綾香、北園優
- 一般2,000円/かぶっクラブ会員・大学生1,500円/高校生以下500円
ご近所割引・WS参加者優待1,000円(※会員・学生料金は要証明書提示)
- 神戸アートビレッジセンター KAVCホール
- 88名



※ A2 四つ折り

スケジュール

兵庫県神戸市／神戸アートビレッジセンター

	下見	
	10/22 (木)	10/23 (金)
9:00		
10:00		打ち合わせ
11:00		↓
12:00	KAVC 着	昼食
13:00	打ち合わせ	打ち合わせ
14:00	写真撮影 街歩き	↓
15:00	↓	街歩き・下見
16:00	↓	↓
17:00	打ち合わせ	打ち合わせ
18:00		移動
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/14 (木)	1/15 (金)	1/16 (土)	1/17 (日)
舞台仕込み	舞台仕込み	舞台仕込み	準備
↓	↓	↓	↓
			公演
		公募 WS	↓
		↓	バラシ
			↓
			振り返り
スタッフ見せ	通し	ゲネプロ	↓
↓	↓	↓	終了・移動
		調整	
↓	↓	↓	

公募型ワークショップ

「夢と踊れ！1日体験 山猫団と踊ろう！」

前回は「新開地舞踊歌劇団」の団員募集の要素も含んだ公募ワークショップとしていたが、今回は気軽に参加できる1日体験ワークショップを目指した。今回も「新開地舞踊歌劇団」のメンバーにお声がけしたところ、半数以上の方に参加していただき、メンバーからの紹介できました！という方も3名おり、参加者の中で輪が広がっているのを感じた。「舞台の臨場感も味わってもらいたい」という点と「新型コロナウイルス感染拡大防止の最中でもストレスなく参加してもらいたい」という点から、232人を収容できるKAVCホールを会場として選んだ。丁寧なストレッチを行った後、北園さんのピアノ伴奏にのせて、ホールを自由に歩きまわるワークへ。普段何気なく行う歩くという行為から、自分がどんな動きをしているのかを意識することから始まった。「日常」の動きからアクションを少しずつ大きくしていき、いつのまにかその動きがダンスになっていく。この段階を経て学んで行く過程は「ダンスは初めて」という参加者にも、とてもわかりやすいと感じた。途中から北園さんがピアノ伴奏を変化させ、その音にあった動きをする。スローな音楽、リズムカルな音楽。慣れてきた人はどんどん動きをつけていく。いつのまにか、最初は戸惑いの表情を見せていた人も、すっかり自分の世界にはいつている。場の空気が温まり、ワークショップも中盤に差し掛かったところで、照明の明かりを取り入れる。これは翌日のホール公演のために、照明スタッフの森さんによって仕込まれていたものだ。本格的な雰囲気の中、物怖じせずどんどんはいつていく人、また初めての経験でなかなか入っていけない人もいたが、「からだは意外にも自分が思っているより動きたがっているから。ふたをしないで、でも無理はしないで、自然にでてくるものを。」という長井さんの言葉がとても印象的だった。ワークショップだけど作品のように感じ、短時間ではあったが、KAVCホールという会場・北園さんの演奏・森さんの照明が相まって、とても贅沢な時間となった。今回のワークショップを通じて、ダンスを初めて経験した参加者たちが「踊る」ことを身近に感じていただけたなら大変嬉しく思う。



公演

『第三回 新開地カブキモノ大興行』



今年度で3回目となる「新開地カブキモノ大興行」は、KAVCホールでの公演と共に枠外で新開地商店街でのパレードを予定していたが、開催1週間前に新型コロナウイルス感染拡大防止の緊急事態宣言が発令され、パレードは延期となったものの公演に関しては内容を変更して実施。山猫団・スタッフともに話し合い、1月まで積み上げてきたものを全て覆さねばならない状況となったが、タイトル通り「それでも、踊る！」という決断をした。一から構成を練り直し、当日は新たな舞台作品を上演。客席数は通常の半分となる50席だったが、感染対策を万全にし、47名の方に劇場までお越しいただくことができた。当初はライブ配信を予定していなかったが、劇場に来ることができない状況でも、「観る」選択肢を増やしたい、こんな状況だからこそ私たちの想いを届けたい、と急遽オンラインでのライブ配信も決行し、オンラインでも41名の方に観ていただくことができた。公演では、コンテンポラリーダンサーの説明から始まり、何もないところから舞台美術を作り上げていくという、コンテンポラリーダンスの楽しみ方やKAVCホールとはどういうことができる場所なのかを観客に伝える内容とした。

山猫団のほかにテクニカルスタッフ、当館スタッフもスタッフの役割として出演。舞台作品をつくる意義、そしてアーティストや地域にある公共ホールの役割について、根源的な問題と向き合う期間となった。どんな状況でも、「発信」していくことが大事なのだと改めて認識した。こういった状況だからこそ生まれたこの作品が、鑑賞していただいた皆様の心に響き、日々への活力となり、「人」を「まち」を少しでも元気にすることができていれば、私共にとって幸甚の至りである。

●来場者アンケートより（感想）

- ・一週間とは思えないクオリティでした！ダンス+舞台について詳しくない自分にとっては逆にとても新鮮で面白かったです！
- ・壊れても立ち上がる、踊ることをやめないというメッセージが公演を通じてどんどん伝わってきました。本当に観に来てよかったです。
- ・レベルがすごく高くて即席で作ったとは思えない完成度の高い作品でした。アンコールラストのまさるちゃんの歌に涙ポロポロものでした。いろんな思いのつまったものを見せていただいて幸せでした。ありがとうございます。
- ・ダンサー、美術、照明、音響全て素晴らしかったです。空間づくりを見せていただけてとても楽しかったです。
- ・ワクワクとドキドキと圧倒ととにかく引き込まれました。生の魅力が本当につまみついて皆さんの姿や表情、声色、舞美、色、音、全てが最高でした。めっちゃ笑ったしめっちゃ泣きました…！本当に大変で制約も多い中これだけ素晴らしいを作られたことを本当に尊敬致します。ありがとうございました！！
- ・このコロナ渦の中、決行していただいたスタッフ、団員、そしてアートビレッジセンターの方々に心から敬意を払います。「日本」が元気よくなれば良いと思います。また私自身も元気をいただきました。これからいろいろ大変ですが、頑張っていきたいと思います。そしてまた「笑顔」で団員の方にお会いできることを心から願います。ありがとうございました。

●この事業への応募動機

ダン活1年目・2年目とダンスを体験し広めることに重点が置かれてきましたが、3年目はダンサーのレパトリー作品の公演というCプログラムの特徴を活かして、ダンスを観ることから感じる面白さと感動を、地域の方に味わってもらいたい、と思いました。劇場はワークショップなどを開催して裾野を広げていくことも大切ですが、本来の役割はやはり公演を制作し、文化芸術を共有・伝承し、市民に感動の場を提供することだと思います。また、1年目、2年目を通して「新開地舞踊歌劇団」というKAVC発信の集団も生まれ、地域に「新開地カブキモノ大興行」という事業が根付いていると感じ、継続していくことで更に揺るぎないものにしたいと思いました。

●事業のねらいと企画のポイント

新開地という場所は、場外舟券売場・パチンコ店・酒場が立ち並ぶ一方、実は子育て層も多く住んでいる地域です。海外の方もたくさんいらっしゃいます。「新開地カブキモノ大興行」を通して、そんな方々が老若男女問わず、心を通わせる力が「踊り」にはあるのだと感じています。公演と共に枠外で商店街パレードを実施し、この事業で大切にしている「KAVCからまちに出て行く」ということを、もっと広い範囲で体現したいと思いました。

●企画実施にあたり苦労した点

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、様々な弊害が生じました。常にうつり変わる状況に不安を感じ、足をとられてしまった部分が多くあります。関東、関西での状況が把握できず、アーティストへの十分なフォローができなかったことは、一番の反省点です。また、オンライン配信について公演の内容から配信可能かどうかなど、知らない部分が多く、結論をだせるまでに多くの時間を費やしてしまい、本来その瞬間にすべきことを見失ってしまったように思います。広報面に遅れをだしてしまったことで、公演の集客には大変苦労しました。次回は綿密なスケジュール管理が必要だと痛切に感じました。

●事業の成果と課題

公演1週間前に緊急事態宣言が発令され、公演ができるかどうか、中止や延期も視野に入れての話し合いの中で色々な想いがありましたが結果的に公演もワークショップも実施するという決断をできて良かったと思います。関係者の中で一人でも反対の人がいれば、実現できなかったことだと思います。人と人がつながり、ひとつのものを作り上げていくということ、またその大切さを感じました。今後の課題としては、アーティスト、公共ホールとしての役割を区別し、ホールからの希望や理想をしっかりアーティストに伝えることを大事にしていきたいと思っています。

●今後の事業展開や展望

来年度はダン活支援を予定していますが、今年度、緊急事態宣言を受けて延期になってしまい開催が叶わなかった「商店街パレード」をこれでもかと華々しく開催して、こんな世の中の状況だからこそ、神戸アートビレッジセンターが当初から掲げている「KAVCからまちに出て行く」ことを実現したいと思います。また、Aプロの際に叶わなかったアウトリーチ先からの公演への集客も実現したいと思います。ダン活支援終了後も新開地に様々な形で「まちと踊る」ということが根付いていくことができる4年目としたいと思います。

●この地域のダン活の特徴

初年度 B プログラム、昨年 A、そして今年 C と、一貫して長井江里奈氏（山猫団）を迎え、一緒に新開地と KAVC の活性化をダンスを通して考えてきた。

KAVC の認知度をあげるために、初年度からパレードを行ったりスタッフ自ら外へ出て商店街への声かけを続けてきた結果、「あの派手なパレードをやっているあのホールね」という声を私も実際に街で耳にし、目的のひとつであった「顔の見える KAVC」には近づいていよう。さらに、初年度 B プロの WS 参加者、市民参加出演者から「新開地舞踊歌劇団」（以下歌劇団）という職業も年齢も様々なダンス（？）表現グループが立ち上がったが、長井さんや KAVC スタッフと交流が継続し、メンバーらは KAVC 事業に足を運んだり、発信協力したり、もちろん長井さん公演には不可欠な存在となった。

商店街や歌劇団と密接な関係性を 3 年に亘って築き上げてきた長井さんとしては、当然この新開地全体を巻き込んだ作品の制作をイメージされていただろう。しかしながら C プログラムは市民参加作品ではなく、レパートリー公演が規則である。こうした葛藤を、長井さん、KAVC スタッフ、歌劇団、地域創造側も常に抱えながら、長井さんによる新開地×KAVC 構想を提唱した KAVC の担当者が今年度担当から外れた。加えてコロナ禍である。スケジュールや連絡調整、下見は？本番はやれるのか？延期か？中止か？ダンスをやる意味とは？コロナ禍でホールを開放することとは？など、課題が次々と生まれては山積していた。KAVC 側は制作、広報、舞台、コロナ対策など担当者を数名で手分けし、オンラインでの打ち合わせを実施しながら、都度対応した。

実施にあたっては、長井さんの「中止や延期をすればこの（数年続けて新開地に根付きつつある）プロジェクトが再起不能になる」との強い思いがあり、無観客オンライン配信も視野にいれ、テクニカルスタッフも含めた検討を行った。

最終的には観客を入れつつ、オンライン配信（ツイキャス）も行うことになったが、出演者、テクニカル、ホールスタッフはじめ、全員の経験と知恵を十分に活かし、「緊急事態 ver. 「それでも、踊る！」」として無事実施された。ワークショップには、この地に根付きつつある歌劇団メンバーが十数人、同窓会的に集合し、また新規参加者もみえた。コロナ禍にあって接触や集合が難しい中、対人関係の大切さを感じての参加だったのではないかと考える。

●課題とこれからに向けて

ダン活最終年であったが、コロナ禍で計画通りとはいかなかったことと思う。さらに、同一アーティストで 3 年間ダン活に取り組む事例もこれまでなく、かつ、1 年目の長井さんと KAVC の呼びかけで立ち上がった市民参加の「歌劇団」が、KAVC や新開地に根付きつつある中、レパートリー公演である C プロにどう彼らと関係させるかは、事業の規則からも、コロナ対策の視点からも、誰にとっても悩みどころだった。ダン活が、ダンスを通して地域資源を発見し、活かし、ホール、ひいては地域全体を活性化させていくことがミッションの一つであるとすれば、芽生え始めた市民参加の熱量を活かすことが最も大事なことではある。しかしアーティストという特別な表現存在が、一般人や地方ではなかなか出会うことができない新たな文化への接触を引き起こすのであれば、アーティスト自身のレパートリーをしっかりと観る、関わる、制作・広報することも不可欠な視点であろう。今回は緊急事態ということもあり、レパートリー公演への議論が棚上げされてしまったところもあるが、今後他地域でも出てくる課題であるため、KAVC としてのスタンスや 3 年通しての地域とホールとの関係変化を再度ヒアリングしておきたい。

ちなみに山猫団として 3 年間継続参加した鈴木綾香さんの「1 年目、500 円のタバコを買うのにホールに来ないおっちゃんをパレードで引き込んだ。3 年目、それなりのチケット代なのにコロナなのに人が来た」という言葉からも、KAVC のダンス事業に興味を持つ人が増えたことが実証される。さらに、歌劇団が世代や地域を超えて KAVC に集い活動し始めたことや、新開地商店街と KAVC が日常的な協力関係を持つようになったことは、地域の中の文化発信地としてのホールのあり方を再認識させてくれる事例であろう。

また、3 年目にしてはじめてテクニカルスタッフの皆さんにも参加いただいたの振り返りを行った。これまではプログラム終了後の懇親会や打ち上げでご意見をうかがうことが主だったと思うが、腰を据えて「なんのためにダンス公演を開催するのか」を、アーティスト、ホール、テクニカルスタッフが語り合い、意見を出し合うことの必要性を感じた。特にコロナ禍において、舞台芸術とそれに関わる人の脆弱さや重要さが浮き彫りとなった。そんな中でもダンスをするということ、ダンスをしてきた人たちが有史以来いたことを考える機会がこのコロナ禍であったと思う。

緊急事態の中で、ダンスをすることそのこと自体が、表現が、人をどれだけ救い、立ち上がらせるのか。神戸の震災後、新開地が復活したように、コロナで自粛になろうと、人が協力し知恵をしぼり、たちあがる姿を今回の公演では観ることができた。公演日は 1 月 17 日、阪神淡路大震災の日だった。

スケジュール

	下見	
	9/29 (火)	9/30 (水)
9:00		
10:00		テクニカル 打合せ
11:00		会場下見
12:00		昼食
13:00	集合	市内視察
14:00	館内案内 打合せ	
15:00	インリーチ	解散
16:00	↓	
17:00		
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
1/28 (木)	1/29 (金)	1/30 (土)	1/31 (日)
公演準備			
照明仕込み			移動
	場当たり	修正	
	テクリハ	↓	
		開場	
		公演	
		↓	
		撤収	
公募 WS 準備	ゲネプロ	フィードバック	
公募 WS	↓	退館	
↓	直し作業		
退館	退館		

公募型ワークショップ

当初は、幅広い世代の方を対象にしていたが、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、「小学生以上のお子様とその家族」を対象を限定した。また、公演が母と子を題材にしたものなので、WS から公演への来場につながる狙いもあり、タイトルを『踊りりんゴリラっば』とし、楽しい、子供の関心を誘うようなものにした。

また、コロナ対策のシミュレーションも兼ねて事業課職員を対象に、下見時にインリーチを実施した。その上で「マスクの着用、他の家族との接触・会話は避ける」を基本に、言葉を使わずに、身体でコミュニケーションが取れるようなプログラムを康本さんが組んでくださった。

参加者は演劇団体に所属している親子3組、職員家族1組、市外からの親子1組の10名だった。

前半は、親子一組になって、背中あわせ等のストレッチ、体全身を動かす骨盤歩き、トカゲ歩きと、体の使い方を学んだ。トカゲ歩きでスイスイ前進する子供たちは、苦労している親達を見て面白がっていて、親と身体、体力が違うことを知る機会ともなった。

後半は、2人の呼吸を合わせるワークが中心だった。親が作った輪や隙間を子が崩さずに通り抜けたり、目をつぶった状態で、相手の体に触り、相手のポーズを真似た。手と手を合わせて、主導側にあわせて磁石のように、離さずに動かしていくワークでは、自分が体を意識的に動かすのではなく、動かされている感覚を味わった。ボールを2人で落とさないように動いた後、最後は、各自ティッシュを手のひらにのせて、落とさないように歩いた。自然と踊っているようなしなやかな動きになっていた。

「普段使わない体の部分を動かしたり、体を意識して動かすことの難しさを改めて感じました。娘とのスキンシップが1番楽しかったです。」「子どもが踊りが好きなので参加しました。とてもとても楽しかったです。」などの声が寄せられた。

遊びのような動きの中で、体を動かすことの楽しさ、自由さを体感してもらえるような内容となった。



公演

康本雅子ダンス公演『子ら子ら』



2017年に初演された『子ら子ら』を再演。時がたてば忘れてしまいがちな子育ての心情が自身も二児の母である康本さんと共演の小倉さんの体で赤裸々に表現され、母と子のリアルな日常が描かれた。

当館が発行する広報誌では、康本さんに創作の経緯、思いを伺い、インタビュー記事を掲載した。作品のテーマから親子セット券を設けた。嬉しいことに、WS参加者は全員公演を鑑賞してくれた。

ソーシャルディスタンスを取る為、会場の座席は前方2列の席を外し、1席ずつ間隔を空けて着席頂いた。また、ダンス公演であるが、演出上大声を発する事、出演者はPCR検査を受け陰性である旨を開演前にアナウンスした。ダンス、歌、台詞ありで、演劇的要素を盛り込んだメリハリのある構成と演出であった。

観客それぞれが、自身の経験に照らし合わせ感性を揺さぶられているようであり、子ども達は、2人のしなやかで、キレのある動きに興味を示しているようであった。

終演後、作品の理解、出演者とのコミュニケーションの場として、出演者2人と当館館長によるアフタートークの時間を設けた。質問コーナーでは、大人から子供まで、手が上がり、それぞれの世代で関心があったことが実感できた。コロナ禍の中での開催だったからこそ、親と子が抱き合う場面などから、生身の身体によるコミュニケーションの大切さ、生の舞台の良さを味わえることの喜びを一層強く感じてもらえる機会になった。

●来場者アンケートより（感想）

- ・すべてにおいて美しかったです。泣きそうになるところがありました。最前列で観られて良かったです。
- ・お客さんに絡むところが良いと思いました。すばしかったです。
- ・久々にとても面白いものを観られました。ありがとうございました。
- ・コンテンポラリーダンスはあまり観る機会が無かったのですが、すごく刺激を受けました。すごく脳みそを活性化された！！何をどう感じるか任せられてという感じ、深くて広くて他の方の感想をきいてみたいです。個人的には痛くてたまらなかった～。
- ・高等過ぎて理解出来なかった。子育ての大変さなのか？自分は得た方が多く子どもに幸せにしてもらった。
- ・私は父親なので、外から見ている妻の姿と重なる部分があった。またコロナ禍のせいかな何度も抱きしめる姿に今失っているものが詰まっていると思った。
- ・“よく分かりました”という気持ちです。（末っ子長男（3才）に苦戦中です）おもしろかったです。
- ・大変すばらしい公演でした！！！！舞台もとてもいい空間で観やすかったです。この地でこのタイミングで観られてうれしかったです。

●この事業への応募動機

2016年に開館した当館は、クラシック音楽を主にした事業を多く手がけてきた。公演の来場者は、50代以上が大半で、若年層は、小、中、高校生の吹奏楽部などの利用に限られているのが現状である。現代ダンスに着目し、昨年度Aプログラムで幼稚園、小学校、中学校でのアウトリーチ、また公募ワークショップを実施したところ、参加者の反応もよく、事業を継続する事の手応えを得た。市民のダンスへの興味、関心を広げ、地域交流とホールの利活用、プログラムのノウハウを得たいとの思いがあった。

●事業のねらいと企画のポイント

プロのアーティストの舞台を都会に行くことなく、低廉な価格で鑑賞できる機会を提供することに加え、地域の特性を活かした市民参加のワークショップを開催することにより、アーティストの人となりに触れることや現代ダンスを身近に感じてもらうことに主眼を置いた。WS、公演共に親子をテーマとした作品なので、お得なセット券（一般＋子ども）の設定で、販売促進につながるようにした。現代ダンスを通じて自分自身を見つめ、他者とのコミュニケーションをはかり、多様性を認め合うこと、身体の動きの可能性を感じ取ってもらうことも狙いとした。また、ホールに足を運ぶことで、他の事業への興味関心を喚起することも意識した。

●企画実施にあたり苦労した点

現代ダンスの難解なイメージを払拭する為、当館発行の広報誌においてアーティストの思い、事業内容をインタビュー記事にして掲載した。また、人目を引くようなWSのタイトル、チラシ、ポスターの作成、ラジオ、SNSの利用などの周知活動を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、2回目の緊急事態宣言下で広報することに難しさがあった。呼びかけや小、中学校、高校の演劇部、大学の幼児教育科などへもチラシを配布したが、反応が薄く、また昨年度アウトリーチを行った学校からの参加者がいなかった事は残念だった。

WS実施前に、感染症防止策、注意点を協議し、対応策を実施前に出演者と書面で確認することで、不安要素を無くすように努めた。

●事業の成果と課題

普段、ここ白河では実施されることが少ない現代ダンスの公演やWSは、参加する人たちの感性を刺激し、コロナ禍での生活洋式や各自の思考を見つめ直す上でもいい機会になったと思う。また、市内在住の外国人の来場もあり、言葉が主でないダンスは、あらゆる人達に紹介しやすい事業だと改めて感じた。関係者から当館の小ホールは、後方座席でもダンサーの足元まで見ることができるので、ダンス公演に向いているホールとのコメントがあり、ダンス事業を実施する際の大きな強みを知ることができた。

課題としては、まず、WS参加者の大半は、前回参加したホールと関わりのある演劇団体の関係者と職員の家族のみで、新規は市外から参加した1組だけだったこともあり、市民が参加しやすい環境をリサーチする必要性を強く感じた。次に現代ダンスのような自由で型のないものは敬遠される傾向にあると感じたため、その魅力をどのように伝えていくかを今後検討していかなければならない。

●今後の事業展開や展望

ダン活3年目の来年度は、Bプログラム市民参加型の公演を実施する。多様なダンスの中から、選択肢の一つとして現代ダンスを紹介し、子どもから高齢者まで、あらゆる人たちが気軽に参加できるしかけづくりを進める。そのためには、アウトリーチやワークショップを中心として、ダンスへの興味関心を高めるとともに、踊る事の楽しさを発信し、ホールと地域、アーティストとの繋がりを構築していきたい。

●この地域のダン活の特徴

昨年度 A プロを実施して、自主公演では初めてコンテンポラリーダンスに臨むホール。

公募ワークショップは、康本さんが行った親子向けワークショップの経験談や、コロナ禍で他人同士のふれあいは難しいが、家族間なら接触可という条件を考慮しながら対象を検討。上演作品が親子の関係性等もテーマになっていることから、親子対象の実施となった。ホール担当者によると、参加者を募る際、親子ペアの参加としたことで、興味があっても対象年齢の子どもがいない場合や、子が参加すると言わないので親が諦めた、という方もいたらしく、少し残念ではあった。ただ、子どもが対象年齢に満たなくても参加したいと近隣の市から問合せくださった方もいて、結果的には、会場になった小ホールでのびのび動くにはちょうど良い人数での実施となった。ワークショップでは、親子ペアでのストレッチや、子どもが身体でつくった輪を親が苦労しながら通り抜けるなどのワークを通して、自然と親子間のコミュニケーションが弾む様子がみられた。終了後のアンケートでも、親子間での身体をつかった対話を楽しまれた様子が伺えて、ダンスのワークショップが、個々身体を動かして表現することだけではなく、人との関わりを豊かにすることを実感した。コロナ禍でなければ、親子に限らず、様々な関係性を生み出すことができると思うので、来年度の B プロがそのような機会になればと思う。

公演は、予約の時点ではなかなか集客が伸びなかったようだが、当日券で来られた方も多く、公募 WS に参加した親子も含め、子どもから大人まで様々な年齢層の方で客席が埋まっていった。ダンスなので日本語が分からなくても大丈夫だろうと、留学生の団が当日券で観覧されていたのも珍しいことだったと思う。

作品は、再演とはいえ、初演からは 80%ほど内容が変わったとアフタートークで明かされていたが、私自身も、会場の違いだけによらず、作品から受ける印象が初演とは違って感じられた。息苦しいくらいに胸がつまる場面もあれば、もどかしさをコミカルに軽やかに吹き飛ばしてくれるようなシーンもあり、また、ダンサーの身体の魅力、共演者の声の魅力など、身体から伝わるものが客席にもしっかり届いていたと思う。そのためか、終演後のアフタートークは、ほとんどの方が残って参加されていた。普段のアフタートークでは質疑応答の時間を取っても質問はそれほど多くないとのことだったが、質問はなくても、子育て中に同じような気持ちになったということを率直に伝えてくださる方や、後半は子どもたちからも感想や質問が伝えられた。シーンに使われていた音の意味を尋ねる方や、印象に残ったシーンを伝える子どもたちと康本さんの対話から、観た方それぞれに、伝わったことや受け止められたことが確かにあったことが感じられて、充実した時間になった。

また、公演を観たホール内部の方々の反応も良かったとのことで、今後ダンス企画を進めて行く際に、ホール職員が実際に見て感じたことから企画を考えていく大きな糧になると思う。

●課題とこれからに向けて

集客について苦心されていたが、公募 WS に参加してから公演に来てくださった方など、一度体験したことが次につながるということを感じられるダン活だった。公募 WS の記事を地元紙に掲載してもらったり、いろいろな方に直接声をかけたり、細かな広報も尽力されていた。また、ホールのテクニカルスタッフの方との連携について、今回を通して、ダンス公演でどう工夫が必要かなど、次年度 B プロに活かせる点がいくつか見つかったと思うので、同じアーティストで継続して事業を進められることが、地域とのつながりという意味でも、ホールスタッフとの連携という意味でも、プラスに働くと思う。

一方で、市内に大学がないこともあり地域に 20 代前後の若者が少なく、高校や地域のダンス関係団体に声をかけたのに反応がなかったことが課題として挙げられた。ホールの他事業のワークショップでも、同じ方が参加されるなど、まだホールとつながっていない層にどうアプローチするか、来年度の B プログラムで誰を対象にしたいか、今後明確化していくことで、地域とホールのつながりを深化させながら事業を進めていかれることを期待したい。

実施団体	土佐清水商工会議所
実施ホール	土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール
実施期間	令和3年3月19日(金)～3月22日(月)
アーティスト等	アーティスト：田村一行 共演者：塩谷智司、小田直哉 テクニカルスタッフ等：阿蘇尊
コーディネーター	宮久保真紀

■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

① 3月21日(日) 15:45～17:15、公演を鑑賞した全年齢、1,000円、15名、ホール舞台上

■公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

■『ジョン万流離譚』

■ 3月21日(日) 14:00開演(13:30開場)

■ 田村一行、塩谷智司、小田直哉

■ 一般2,000円、高校生以下1,000円

■ 土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール

■ 82名



スケジュール

	下見	
	9/29 (火)	9/30 (水)
9:00	移動	移動
10:00	宣材撮影	資料館等視察
11:00	↓	↓
12:00	昼食	昼食
13:00	打合せ	帰京
14:00	↓	
15:00	↓	
16:00	↓	
17:00	チェックイン	
18:00	交流会	
19:00	↓	
20:00		
21:00		
22:00		

※ 28 日移動日

実施期間			
3/19 (金)	3/20 (土)	3/21 (日)	3/22 (月)
ホール入	ホール入	ホール入	帰京
仕込作業	場当たり	通し稽古	
↓	↓	↓	
昼食	昼食	昼食	
位置決め	舞台稽古	開場準備	
↓	↓	公演	
フォーカス	↓	公募 WS	
直しなど	テクリハ準備	↓	
明かり作り①	テクニカル リハーサル	撤去・清掃	
↓	↓	↓	
夕食	夕食	退館	
明かり作り②	ゲネ準備		
↓	ゲネプロ		
退館	退館		

※ 18 日移動日

公募型ワークショップ

力を抜くことから始めると、頭も体も驚くほど自由になってゆく。自分で「動く」のではなく「動かされる」。大駱駝艦、田村一行氏がワークショップの中で参加者に語りかける台詞である。カタチに正解も不正解もないし自分ならではの動きや踊りを自らの表現力によって発見していく。そういった体験をしてもらおうと公演を鑑賞し、尚且つWS付限定チケットを購入して頂いた15名がワークショップに参加した。(なお希望者はWS観覧可能とした)参加者は3歳児を連れて親子、小学生や高校生といった学生、バレエの先生などダンス経験のある大人、そしてまったくダンス経験のない方までいろいろな人がステージに上がった。公演中の白塗りに一転、メイクを落とした素顔の一行氏は開ロ一番ホワイトボードを使用し、舞踏とは何か?という説明から入る。いきなり体を動かすのではなく頭を働かせる部分から入ったのは掴みとしては面白い試みだ。

一通りの説明のあと参加者全員で軽くストレッチなどを行い、いよいよワークショップのスタート。頭の先に糸が付いて、それが上へと引っ張られる感覚で動くといったカタチ、参加者同士ペアを組んでのカタチ、大駱駝艦と言えばコレ!と言えるケモノのカタチなど私自身も東京で体験したことのあるワークショップが目の前で繰り広げられていく。

中でも参加者中最年少の3歳児の集中力はなかなかのもの。本公演では暗めの照明や嵐の音などに根負けし、途中ロビーで休憩していたりもしたが、このワークショップではお母さんも一緒に参加していたとはいえ、大人に負けず劣らずのパフォーマンスを見せていたのが微笑ましかった。

時間にして約90分、本公演よりも長丁場ではあったが、参加者はもちろん一行氏もまだまだ続けたいといった素振りを見せるなどたいへん中身の濃い有意義な時間であった。



公演

大駱駝艦・田村一行舞踏公演 舞踏 土佐清水風土記『ジョン万流離譚』



新システムに移行してのダン活。2017年にBプログラム、そして2020年にAプログラムを終え、ついに最後のCプログラムを開催する運びとなった。市民参加型のBプロ、ホール公演は行わず学校等で開催したAプロと違い、今回のメインはホールで開催される本公演のみ。土佐清水で行う初の舞踏公演をどういった形で周知していくのか？を考えたとき、郷土の英雄ジョン万次郎と田村一行氏を絡めることを思い付いた。

当初、Web会議にてジョン万次郎のことを尋ねた折、一行氏はジョン万のことは初めて聞いたので調べておきますと回答したが、その後ジョン万次郎のことを調べるにつれ、その生きざまから非常に大きなインスピレーションを得たということでジョン万をテーマにした新作舞踏の制作が決定。そこからは下見時に生家やゆかりの浜辺（ここでは宣材写真も撮影）を訪れ、ジョン万次郎資料館にも長時間滞在し貴重な資料や展示物からさらなる知識を吸収、その後も様々な出版物を読むなどして地元の私たちを遥かに凌駕するジョン万次郎通に。

作品内容としては土佐清水を訪れた学生が不思議な体験をするというお話の中にジョン万次郎とその万次郎を待つ母親がメインで登場するといったものだと担当は解釈したが、それも必ずこうでなくてはいけないといったものではなく、観た人が自由に解釈しても良いという部分があるということが、こういった舞台の面白いところではないだろうか。そして誰の中にも困難を乗り越えるジョン万スピリッツは息づいているのだ！

●来場者アンケートより（感想）

- ・メインが3人だけとは思えない迫力のある公演でした。濃く、面白い、非日常をありがとうございました。
- ・最初は怖かった。でも途中から面白かった。
- ・空気が違うというか、引き込まれました。
- ・見たことのないダンス、衣装、演出。キモカッコイイし、キモエロイ？とても印象的でした。
- ・アホウドリ、船、波、カツオなどが万次郎の不条理な境遇と重ね合わせられていると感じ、面白かった。
- ・大変心躍る時間を過ごさせて頂きました。一行さん、ありがとうございました。
- ・ユーモアを交え楽しかったです。夢の一部でオチがボミエ？ワークショップも面白かったです。
- ・初めての舞踊でしたがとても良かったです。表現することは素晴らしいですね！
- ・公演時間が長く感じず短かったので良かったと思う。熱演はすごい！！
- ・舞踏を始めて見ることができました。身体表現（精神的なものも含め）のすごさを体感できました。
- ・ストーリーの繋がりが分からなかったのですが、表現の面白さを感じました。
- ・良かったです。力強いところも迫力があり元気が出ました。

●この事業への応募動機

ABC から成る新システムに移行したダン活事業。既に A プロと B プロを終えているため、最後に残った C プロに応募するのは流れの中では自然なこと。が、ホール公演を行わず学校等でのアウトリーチが主な A プロ、市民参加型の B プロ、そしてアーティストによる本公演で勝負の C プロとダン活事業で括られているとはいえ、実はそれぞれ毛色も違い、事業における対象や戦略も違ってくるこのシステムに大きなやりがいを感じたことが第一。そして諸事情により支援プログラムに応募しないまま終わった以前のダン活が心残りだったので今回こそは！という思いで応募させて頂きました。

●事業のねらいと企画のポイント

2012 年に初の現代ダンス公演を実施。その後 2017 年は市民参加型の B プロを、そして昨年度はアウトリーチ主体の A プロを実施した。そのいずれについても地域の方たち（特に子どもたち）との絡みがあり、その流れで本公演に足を運んでもらうことが出来た。が、何度も述べたように本 C プロはアーティストによる本公演がメインとなるため、いかに興味を持ってもらえる企画にするか？ここを考えたとき、郷土の英雄ジョン万次郎とビジュアルインパクト大の田村一行氏、時を超えたこの 2 人のコラボで行こうと決めた。

●企画実施にあたり苦労した点

ここで改めて活字にするのも嫌になるほど聞き飽きた感があるが、もう 1 年以上も続くこのコロナ禍問題は避けて通れない話題である。昨年 3 月頃より当館のみならず、日本全国でありとあらゆる行事や催し物が延期、もしくは中止になった。

当館は先のことが見通せない故に、早めに延期や中止を決定するのではなく、あくまで予定していた時期に予定通り開催をするというスタンスを取った。が、これはこれで日々変化していく全国的な状況や関東エリアの状況、そして本市を含む高知県下の状況を注視しながらというたいへん気を揉む状況下での戦いを意味していた。下見が無事に終わっても本公演の時にはまたどうなっているか分からない。とにかく最後の最後まで気が抜けない日々が続きはしたが、無事に開催することが出来たことを素直に喜びたい。

●事業の成果と課題

担当者である私も含め、来館した人の多くに初めて舞踏なるものを、ここ土佐清水で観てもらえたということは非常に大きな意味があると思われる。

そして特に地元の人々にとってはジョン万次郎という素材を扱い新作舞踏として披露したアーティスト、田村一行氏のことを知ってもらえる良いきっかけにもなった。

課題としては、今後このジャンルをどう発展させ、また継続していくのか？いきなり爆発的な発展は難しいと思われるが、継続することはさほど困難ではない。

やり方は様々である。それこそ一行さんの言うように決まったカタチはない。それを模索していきたい。

●今後の事業展開や展望

1 年のインターバルはあったにせよ、これで無事にダン活事業 A プロ～ C プロをすべて終了することが出来た。そしてそれぞれのアーティストと良好な関係を築くことが出来たことも、今後の事業展開や展望の選択肢に広がりを見出せると思われる。

まだまだ地元根付いたとは言えないジャンルではあるが、こうして数年に渡り開催をしてきたことは紛れもない実績になっているので、ここで足を止める気はない。

まずは・・・支援事業を活用させて頂くつもりです！

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：田村一行（前々々年度：赤丸急上昇 [Cプロ] /前年度：鈴木ユキオ [Aプロ]）

公演観客数：82名

公募ワークショップ：15名（3才～60代）

担当の柿谷氏がダン活研修会での自己紹介で「東京から一番移動距離がかかる街が土佐清水です」というパワーワードに、参加者全員が惹きつけられたと思う。飛行機とバスと特急電車で最寄り駅である中村駅まで移動し、ホールから車で迎えにきてくださって、さらに40分近く。乗り継ぎ時間も合わせて羽田空港から約7時間の先に土佐清水市が位置している。黒潮の恩恵で温暖・豊かな土地であり、市民文化会館の名称にも「くろしお」とついている。

ダン活最終年は田村一行氏の作品をぜひ紹介したい、という強い要望で決まったという。元々はこれからの世代の子どもたちも楽しめる田村氏の子どもの向け作品を想定していたそうだが、地元が一番の名士「ジョン万次郎」というお題がホールの方からあがり、「風土記シリーズ」として上演することが決まった。

9月末の下見の際は、足摺岬、ジョン万次郎生家、ジョン万資料館など、関連する場所や施設をしっかりとリサーチできる予定が立てられており、さらにチラシとポスターの撮影もロケハン・デザイン案を含め、徹底した準備がなされていたことで、滞在時間を有効に使うことができたことは、3月後半までの田村氏の創作にも強く反映されたと思われる。

田村氏は出演メンバーも含め、ジョン万次郎関連の書籍を深く読み解くなど時間をかけて準備をされ、その中でも漂流して不明になり生きているかもわからない息子を待ち続ける母親を軸に作品を組み立てたことで、ジョン万を知っている来場者も新しい視点で上演作品を楽しめたように思う。さらに、ジョン万や土佐清水の地元要素をベースに高知に縁のある事物が加わり、奥行きのある幻想的な世界がくろしおホールに広がった。

公演終了後に行った公募ワークショップは、30分前まで作品を上演していた同じステージ上で開催。客席で見学もOKとしたため、参加者の保護者だけでなく、ダンスワークショップに関心のある方々が20名近く残った。見学者の中には、ワークショップの輪に入るの気がひけるけど、控えめながら参加者と同じく身体を動かす人もちらほら。普段クローズドな環境で行うことの多いワークショップだが、参加者の許可さえとれば、公開型を積極的に取り込むことで、新しい参加者層を拓けるきっかけにできると思う。

●課題とこれからのに向けて

来場者のほとんどの顔が分かるといった、地域住民の方との強い結びつきがくろしおホールの強みだといえる。法人・個人両方の賛助会員の多さも他に類をみないだろう。アンケートでも来場理由が「ポスターを見た」という回答が多かったことがうなずけるほど、市内の屋外、店舗内のあちこちに2種類のポスターがはられていた。また広報宣伝カーで当日開場1時間前という直前まで、街中をアナウンスして回る手法は、地元の方々の予定の立て方を熟知しているからこそできるアプローチだ。

ホールの担当者4名、その内の二人が照明と音響の技術も担当しつつ、当日の表方の仕事も携わるなど大変な業務量ではあるが、全体のそれぞれの動きを把握することには繋がっている。来場者の多いイベントなどは、当日に人を増やすこともあるという話だったが、次代の企画従事者・観客の育成も視野にいれ、運営サポートスタッフという形の仲間を増やしていくことをお勧めしたい。

事業資料

宗像ユリックス

A4 両面 (4色/1色) (公募ワークショップ募集)

今だから、スローで静かなダンス講座
ユリックス
ダンス講座
VOL.2

講師：長井江里奈
(舞台芸術集団「山陽団」主催)

集まってはいけない、近づいてはいけない、離ってはいけない... コミュニケーションのあり方が変化していく中で、いつの間にか馴染んでいく気持ちはありませんか？
 歩く、止まる、振り向く、手を伸ばす... そんな日常の動作から、あなただけのダンスを立ち上げていきます。自分でも気が付かなかった思いをダンスが解放してくれます。

★前回の参加者の声★

最初は恥ずかしかったけど、最後は楽しむことができた。
 最初は頭で考えたり恥ずかしかったりしたので、周りの方では考えず身体を動かして楽しめました。
 普段強さすることのないダンスを楽しめました。
 指一本の動きだったり、足を少しあげてみたり、動きに意識がいって思ってた、夢中になった。

2020年
10月10日(土) 15:00~16:30 (開講 14:00)

会場：宗像ユリックス イベントホール
 定員：15名程度 (開講9月30日(日) ※定員にのり次第、受付終了)
 対象：中学生以上。ダンス経験不問。
 参加費：一人500円 ペア800円 ※ユリックスマールクラブ会員対象外
 受付：8月1日(土) ※ユリックスマールクラブ会員・一般同
 服装：動きやすい服装。裸足または靴下になります。(更衣室あり)
 持ち物：マスク・タオル・飲み物
 申込方法：裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上、宗像ユリックスインフォメーションまたは電話にてお申込みください。

主催：宗像ユリックス 共催：(一部) 当地自治体
 申込用紙7ページあり (有料、10/3までにお送り)
 オリジナルダンス公演「12月20日」出演者同時募集！
 詳しくは裏面をご覧ください

お問い合わせ・申し込み：宗像ユリックス文化事業部 0940-37-1483 (FAX:0940-37-1483) (FAX:0940-37-1483) (FAX:0940-37-1483)

公共ホール現代ダンス活性化事業
ユリックスダンス講座 Vol.2 参加申込書

参加者名 (ふりがな) _____ 年齢 _____ 性別 _____
 姓 _____ 名 _____

保護者承認欄 (参加者が18歳以下の場合)
 保護者承認 (参加者が18歳以下の場合)
 保護者承認欄 (参加者が18歳以下の場合)
 保護者承認欄 (参加者が18歳以下の場合)

ダンス講師への参加を承諾します。 署名 _____

ご住所 _____ 電話 _____
 〒 _____

職業 _____

1.会社員 2.公務員 3.自営業 4.団体職員 5.主婦 6.パート 7.アルバイト 8.派遣職員 9.専門職
 10.学生 (中学・高校・大学・専門学校) 11.その他か ()

ダンス経験 (ある方のみ)
 ジャンル _____ 経験年数 _____ 年

現在ダンスや演劇・音楽などの所属団体 (部活・サークル含む) に属している方はご記入ください。
 なし・あり (所属団体: _____)

ワークショップで学びたいこと知りたいこと、事前に会場にお知らせがある場合はご記入ください。

※記載された個人情報は公表せずご自身の意思と目的にのみ活用させていただきます。
 法令に基づき関係事業等のない限り目的にのみ活用させていただきます。 WYS参加No. _____

お問い合わせ・申し込み
 宗像ユリックス 文化事業部 TEL0940-37-1483 (月曜休、祝日の場合は翌平日)

演出：長井江里奈
オリジナルダンス公演「12月20日(土)にがはつか」制作決定!
 あなたのダンスが見たい！
 長井さんと一緒に唯一無二の作品を作ってこれる出演者を募集します!

出演者：山陽団+「あなた」
 公演日：12月20日(土) 午後
 練習日：①10/10(土) ②10/11(日) ③12/15(水) ④12/16(木) ⑤12/17(金) ⑥12/18(土) ⑦12/19(日)
 ※12/19(日)は練習日コソックスダンス講座として実施。
 定員：10名 締切日：9/30(水)。ただし定員に達し次第受付終了。
 参加資格：20歳以上(定員制)。福岡県での練習に参加できる人。
 ※お断りにする公演・出演料の決定は10/31日までに。
 ※詳細は募集チラシまたは宗像ユリックスHP(0940-37-1483)をご覧ください。
 ※お問い合わせ・申し込み：宗像ユリックス文化事業部 TEL0940-37-1483

A4 両面 (4色/1色) (出演者募集)

あなたのダンスが見たい。
えっ私？

あなたも

ダンス未経験者歓迎
オリジナル「12月20日」
ダンス公演
(出演：山陽団と「あなた」)
出演者募集!

「どこかの席か」ではなく、「あなた」でしか表現できない、「あなた」だけの動き(ダンス)を長井江里奈と一緒に探しながら、唯一無二の作品を作ってみませんか？
 自分自身の「ダンス」を表現して、お客様の前で、「あなた」の動きを引き出すところからスタート。
 どんな自分になるか？「あなた」だけの動き。そのために、人生の糧になるスキルが磨かれます。
 ダンス経験は全く必要ありません。12月20日(日)の公演が「あなた」を持っていきます!

演出：長井江里奈
(舞台芸術集団「山陽団」主催・演出家)

練習日	① 10月10日(土)	② 10月11日(日)	③ 12月15日(水)	④ 12月16日(木)	⑤ 12月17日(金)	⑥ 12月18日(土)	⑦ 12月19日(日)	★ 12月20日(日)
時間	15:00~16:30	15:00~16:30	18:30~21:00	18:30~21:00	18:30~21:00	18:30~21:00	18:30~21:00	18:30~21:00

【会場】宗像ユリックス イベントホール 他 【対象】20歳以上 (有料) ※原則すべての練習日に参加できる人。12月20日は公演のみ参加可能。
 【参加費】一人500円 ペア800円 【服装】動きやすい服装。裸足または靴下になります。 【持ち物】マスク・タオル・飲み物
 【申込先】宗像ユリックスインフォメーションまたは電話 (申込用紙は別途お送りいたします。)

お問い合わせ：宗像ユリックス文化事業部 ☎0940-37-1483 (FAX:0940-37-1483) (FAX:0940-37-1483)

公共ホール現代ダンス活性化事業
オリジナルダンス公演「12月20日」出演申込書

■出演対象は原則20歳以上です。
 ■練習・出演に関する交通費・出演料等はございません。

受付期間
8/1(土)~9/30(水)

参加者名 (ふりがな) _____ 年齢 _____ 性別 _____
 姓 _____ 名 _____

ご住所 _____ 電話 _____
 〒 _____

職業 _____

1.会社員 2.公務員 3.自営業 4.団体職員 5.主婦 6.パート 7.アルバイト 8.派遣職員 9.専門職
 10.学生 (高校・大学・専門学校) 11.その他か ()

ダンス経験 (ある方のみご記入ください)
 ジャンル _____ 経験年数 _____ 年

現在ダンスや演劇・音楽などの所属団体 (部活・サークル含む) に属している方はご記入ください。
 なし・あり (所属団体: _____)

備考 _____

※記載された個人情報は公表せずご自身の意思と目的にのみ活用させていただきます。
 法令に基づき関係事業等のない限り目的にのみ活用させていただきます。

◎交通アクセス 宗像駅下車 (快速利用、徒歩約30分、小倉からの約40分)
 宗像駅 (日の宮2) から西鉄バス徒歩約10分。ふれあいバス宗像駅まで約20分。
 タクシーで約5分。徒歩徒歩徒歩。
 ◎託児サービスあり 申込方法、料金等の詳細はお問い合わせください。

お問い合わせ・申し込み
 宗像ユリックス 文化事業部 TEL0940-37-1483
(月曜休、祝日の場合は翌平日)

 長井江里奈 Erina Nagai
 舞台芸術集団「山陽団」主催・演出家。
 1999年より『伊藤みゆみ・輝く未来』ダンサー。カンパニーの解散まで国内外で数多くの舞台に出演。
 2002年、遠田誠らと『まことクラブ』を立ち上げ、劇場のみならず美術館・映画館・商店街・路面電車内・環境などで部活動と称してパフォーマンスを行う。
 2011年よりソロ活動開始。自作自演の一人ミュージカルを上演するなど、ダンスの枠に収まらない活動を展開。『椰子』名義で浪遊音楽世界2012・2015に参加。会期終了二日前に公演キャラクターに就任。
 日本各地でワークショップなどの普及活動も積極的に行う。

荘銀タクト鶴岡

A4 両面 (4色 / 1色)

荘銀タクト鶴岡 2020年度自主事業【Dance/Dance/TACT】オリジナルダンス公演

ダンスWS&映像出演者募集

振付・演出：中村蓉
Yo Nakamura

荘銀タクト鶴岡を舞台にしたオリジナルダンス公演を行います。作品の一部となる映像作品の中で踊ってくれる方を募集します。また、作品づくりを体験できるワークショップも開催します。タクトのユニークなカタチからダンスが生まれ、タクトと一緒に踊りませんか？

2021 3/5 (金) ワークショップ
6 (土) 7 (日) 映像撮影 (どちらか選択)

一般 500円 / 中学生以下無料 (エントランス入場無料)

荘銀タクト鶴岡 ORIGINAL DANCE 公演 テクテクタクト 2021 3/28日

振付・演出：中村蓉

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。小野寺健二、若藤良平、室伏暉の修行作りに出逢い、ダンスタクトを始め、自らの公演をルーマニア、ソビエト連邦、東アジア文化都市式典(韓国光州、横浜)など国内外で上演。二番目として「FUTURE」(チーフデザイナー ロックランド・sammie MAGUI) MVの製作を担当。2018年ドイツで2ヶ月滞在し制作したメインラングエン劇場制作オペラ「FIXION IN CHINA」(演出：植松友一)は「イェルムン」公演が5年連続ベストプロダクション10に選出された。他にダンスとして「家康にカンパイ!」MVにも出演。(歌謡曲スウィーツ)と題し、歌詞に登場する人物になり切ったダンスワークショップを各地で開催。第1回カンパイベスト賞(2012)、横浜ダンスコレクションEX賞(制作費、テレビ国際展制作費(2013)、第5回ユルムン劇場コンテンポラリーダンス部門新人賞(2016))などを受賞。

日程

ワークショップ	映像撮影
3月5日(金) 18:30~20:30 (受付開始 18:00)	3月6日(土) 19:00~21:00 (受付開始 18:30)
	3月7日(日) 10:00~12:00 (受付開始 9:30)

映像出演をご希望の方はワークショップへの参加が必須となります。映像撮影はどちらか1日お選びください。

対象 ワークショップ：小学生以上 / 映像出演：中学生以上 (対象年齢以下は応募不可)

応募締切 2月14日(日) 必着 ※定員になり次第締め切り

申込み方法 荘銀タクト鶴岡公式ホームページ・電話・窓口

定員 ワークショップ：30名 / 映像出演：各日10名

参加費 ワークショップのみ：500円 / ワークショップ+映像出演：1,000円

お問い合わせ 荘銀タクト鶴岡 TEL0235-24-5188 (9:00~19:00)

主催 荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会

共催 一般財団法人地域創造

WSのみも参加もOK!

お知らせは公演タクトをFacebookで

荘銀タクト鶴岡

応募用紙

ふりがな	生年月日 西暦	性別 男・女
氏名	年 月 日	電話番号
		メールアドレス
住所		
ダンス経験	ダンス経験者の方は具体的なジャンルをお書きください	
有・無		
希望日	ワークショップのみ 3月5日 18:30-20:30	3月6日 19:00-21:00 3月7日 10:00-12:00 どちらでもよい
特記事項		

神戸アートビレッジセンター

A4 両面 (4色)

2021年 1月16日(土) 14時~

場所：KAVCホール

山猫団と踊ろう!

1日体験 夢と踊れ!

山猫団がそのまゝあなたの魅力を引き出します! ダンスの経験は一切必要ありません。まだ見ぬ新しい自分によってみませんか?

ダンスワークショップ 参加者大募集

新開地カブキモノ大祭り

講師プロフィール

山猫団 山田 圭子

山猫団は、神戸市東灘区に拠点を置く、伝統舞踊・現代舞踊の両方を得意とする舞団です。山田圭子(山田 圭子)は、山猫団の代表を務め、数々の公演に出演しています。また、山田圭子は、山猫団のダンスワークショップの講師としても活躍しています。

【申込・問合せ】 当ホームページのフォームからまたはQRコードよりお申し込みください。

神戸アートビレッジセンター

〒652-0811 兵庫県神戸市兵庫区新開地5丁目3-14
WEB <https://www.kavc.or.jp> TEL 078-512-5500

夏目に開催! 第三回 新開地カブキモノ大祭り 山猫団ダンス公演

さあみなさんよってらっしゃい、みてらっしゃい! 山猫団がKAVCホールで盛り上げ!!

日時：2021年1月17日(日) 13:30開演 会場：神戸アートビレッジセンター KAVCホール
料金：一般 2,000円 / カブキクラブ会員・大学生 1,500円 / 高校生以下 500円
※当日、学生料は別途お申し込みください。

【主催】 神戸アートビレッジセンター・後援：後援者：公益財団法人 神戸市文化振興財団
【協賛】 一般財団法人 地域創造 (9月6日～10月10日開催) 一般社団法人 神戸市文化振興財団
【協力】 新開地本通商店会、新開地まちづくりNPO
【後援】 文化庁文化芸術振興費補助金、兵庫県、神戸市、新開地まちづくり委員会
【共催】 一般財団法人 日本舞踊文化振興会

山猫団ダンスワークショップ参加者大募集

1日体験 山猫団と踊ろう!

2021年1月16日(土) 14:00~(2時間程度) 要予約

会場：KAVCホール
対象：中学生以上の方(経験不問) 定員：15名
持物：マスク・着替え・上履き
※参加費は別途あり、必ずご用意ください。
※その後の新型コロナウイルス入場制限対策については、お申し込みの際にご確認ください。

講師プロフィール

山田 圭子

山猫団 山田 圭子

山猫団は、神戸市東灘区に拠点を置く、伝統舞踊・現代舞踊の両方を得意とする舞団です。山田圭子(山田 圭子)は、山猫団の代表を務め、数々の公演に出演しています。また、山田圭子は、山猫団のダンスワークショップの講師としても活躍しています。

【申込・問合せ】 当ホームページのフォームからまたはQRコードよりお申し込みください。

神戸アートビレッジセンター

〒652-0811 兵庫県神戸市兵庫区新開地5丁目3-14
WEB <https://www.kavc.or.jp> TEL 078-512-5500

夏目に開催! 第三回 新開地カブキモノ大祭り 山猫団ダンス公演

さあみなさんよってらっしゃい、みてらっしゃい! 山猫団がKAVCホールで盛り上げ!!

日時：2021年1月17日(日) 13:30開演 会場：神戸アートビレッジセンター KAVCホール
料金：一般 2,000円 / カブキクラブ会員・大学生 1,500円 / 高校生以下 500円
※当日、学生料は別途お申し込みください。

【主催】 神戸アートビレッジセンター・後援：後援者：公益財団法人 神戸市文化振興財団
【協賛】 一般財団法人 地域創造 (9月6日～10月10日開催) 一般社団法人 神戸市文化振興財団
【協力】 新開地本通商店会、新開地まちづくりNPO
【後援】 文化庁文化芸術振興費補助金、兵庫県、神戸市、新開地まちづくり委員会
【共催】 一般財団法人 日本舞踊文化振興会

当日パンフレット (Bプログラム)

宗像ユリックス

A4 二つ折り 両面 (1色)

長井 江里奈 Erina Nagai
舞台芸術集団「山猫団」主宰・演出家。
1999年より『伊藤キム+輝く未来』ダンサー。カンパニーの解散まで国内外で数多くの舞台に出演。2002年、遠田誠らと「まことクラブ」を立ち上げ、劇場のみならず美術館・映画館・商店街・路面電車内・廃墟などで部活動と称してパフォーマンスを行う。2011年より「吟子」名義でソロ活動開始。自作自演の一人ミュージカルを上演するなど、ダンスの枠に収まらない活動を展開。日本各地でワークショップなどの普及活動も積極的に行う。

山猫団 Yamanekodan
2013年3月結成。
ダンサー、音楽家、絵描き、造形作家、デザイナー、照明家、音響家、舞台監督、衣装作家、写真家から成る舞台芸術集団。
ステージ・客席を含めた空間美術から、イラスト・ダンス・音楽・芝居まですべて自家製で、「扉の向こう」に幻の時間と空間を作り出す。
公式サイト: <http://www.ynd.tokyo/>

山猫団の今後のスケジュール・・・
▶「第三回新聞地カブキノ大興行」
2021年1月17日(日) 13:30開演 @神戸アートビレッジセンター

▶市民参加型ダンス公演「9月23日」
2021年9月23日(木・祝) @川崎市アルテリオ小劇場

▶新作公演
2022年2月12日(土) @山形県鶴岡市荘銀タクト鶴岡

▶「小さな牧のサーカス」
2022年3月5日(土) @愛知県小牧市市民会館

▶山猫式文化教室
毎週土曜日 午前 @神奈川県川崎市麻生区
舞台芸術集団「山猫団」の長井江里奈と、鈴木綾香がメイン講師をつとめる市民向け定期ダンスワークショップ。

市民ダンスサーズ情報・・・
▶岩下愛「オドリクリエーション」▶ 

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業

宗像ユリックス オリジナルダンス公演

12月20日

じゅうにがつ はつか

2020年12月20日(日) 14:00開場 14:30開演
宗像ユリックス ハーモニーホール

主催 宗像ユリックス 共催 (一財) 地域創造

ごあいさつ

本日はコロナ禍にも関わらず、宗像ユリックスにとって初めてとなる市民参加型ダンス公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。
10月に開催したワークショップの参加者の中から9人のメンバーが「市民ダンサーズ」として、この公演への出演を決めてくれました。
それから長井さんと再会するまでの約2ヵ月。仕事や家事、子育てをしながら合同練習を重ねてきました。
その間、世代を超えた友情が芽生えた人達、怪我をしてしまった人、誕生日を迎えた人、出演を諦めざるを得なかった人、息子が誕生した人。
様々な思いを胸に今日という日を迎えました。
時間や空間を共有する事が難しい世の中になってしまいましたが、自分以外の誰かの人生に関わったり、思いを馳せたりする事は、自分の人生を豊かにする事に繋がるのではないかと感じられる作品になりました。
最後に本公演開催にあたり、お力添えを賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

公益財団法人 宗像ユリックス

オリジナルダンス公演「12月20日」への思い—
このコロナ禍に、市民参加型のダンス公演が成立するというのはかなり稀なことです。そして、先が読みづらい日々の中で、本番のたった一日の尊さも増えています。ですが、特別な日でありながらもやはり365日のうちの一日であることに変わりはなく、世界中の人たちがそれぞれの状況の中で12月20日を過ごします。最高の一日という人もいれば、最悪の一日という人もいるでしょう。色々な事がある中で、「私達は12月20日に舞台に立つことを選ぶ」という意味で、公演のタイトルを「12月20日」にしました。
12月20日は私達が生まれる前も死んだ後も同じように巡ってきます。それでも今日という日は一度しかない。このかけがえのない一日に繰り広げられる、出演者それぞれの人生を辿ったステージをぜひご覧ください。

山猫団主宰 長井江里奈

出演

市民ダンサーズ

有村 浩美	アロハ〜！今日も元気にパワーアップ！
岩下 愛	たまに忍者な双子母です。踊りまくるでござる！
小鉢 有紀	よろしくお楽しみまっす！！！！！！！！
坂田 久枝	いくつになっても踊っていたい。きらきら〜☆
進藤 美菜	暮らし始めてまだ半年の宗像で、ダンスが導いてくれた舞台を思いやり楽しめます！LOVE♥
曹 知言	舞台にいる自分がピカピカしています。
塚本マリー	今日は頑張ります。
和田 麗那	みんな楽しく練習しました！ 皆さん今日は良い一日になりますように。

市民スタッフ

渡 知恵子 12月20日！自分に感動の未来与えたい♥

宗像ユリックス

倉田宣子	小林明日香	五味佐和子	野田泰裕
宮崎穂波	森 義央	原代 薫	

山猫団

演出・振付・出演	振付・出演
長井江里奈	鈴木綾香
音楽	美術
北園 優	ニシハラ☆ノリオ

照明設計=横山和彦 音響=中村秀樹 通訳池田太郎
照明=明石祐樹 佐々木朗久 佐々木美佳

荘銀タクト鶴岡

A3 二つ折り 両面 (4色)

荘銀タクト鶴岡 2020年度自主事業【Dance!Dance!TACT!】

オリジナルダンス公演

テケテケタクト

タクトをおどる ダンスをあるく

テケテケタクト

振付・演出 / 中村 蓉
 出演 / 中村 蓉・田花 遥・望月 寛斗
 菊地 将晃・大川 春奈・風間 重美

公演映像制作 / NPO やまいろ
 テクニカルスタッフ / ステージアンサンブル東北
 主催 / 荘銀タクト鶴岡・鶴岡市教育委員会
 共催 / 一般財団法人地域創造
 (令和2年度公共ホール利用促進事業)
 企画・制作 / 荘銀タクト鶴岡

映像出演

阿部 文子 / 阿部 ひなこ / 大滝 実 / 後藤 あさひ / 鈴木 未夢
 谷川 遥菜 / 長岡 善依 / 横山 恵季 / 横山 大地 / 渡邊 凜
 牧野 和歌子 / 浦嶋 寛 / 浦田 美咲 / 奥山 心結 / 菊池 今日子
 眞田 風 / 白幡 輝 / 菅原 美玲 / 相馬 孝次 / 成澤 一希
 長谷川 美波 / 山崎 京大 / 瀧部 ティアラ / 加藤 雄 / 小田文香
 軍司 愛 / 五十嵐 咲紀 / 佐藤 もも子 / 高橋 幸介

Special Thanks

致道館
 致道博物館
 鶴岡アートフォーラム
 ギンヨー 827
 ラズベリーハウス

荘銀タクト鶴岡
SHOJIN TACT TSURUOKA

オリジナルダンス公演
大ホール 公演終了後にアフタートーク開催!
 OPEN ▶ 14:15 START ▶ 15:00
 振付・演出 : 中村 蓉
 出演 : 中村 蓉・田花 遥・望月 寛斗
 菊地 将晃・大川 春奈・風間 重美

映像展示
 10:00~17:00

エントランス中央	『椅子たちのさわめき』
練習室1	『真夜中のタクト』
アーティストラウンジ	『Changing』
搬出入口	『Beginning』

ARTIST MESSAGE

中村 蓉
YO NAKAMURA

「之を楽に者に如かず」の一女を見つけて、私の名は「タクト」に...と思ふ途端、「『室内語』の冊子に書かれている言葉たちが踊り始めました。今日お洒落するのはそんなタクトです。何事も楽しんで着飾ら!!! 楽しんで上手な出演者・タクトスタッフ・ワークショップにご参加ください。素敵な皆さまと出会えて最高です☆

菊地 将晃
MASAOKI KIKUCHI

「誰もがみんなアーティスト」みんなの表現が一つになって作品が完成するのを楽しんで、みんなでタクトに命を吹き込んでいきましょう! 次にステージに上がるのはあなた!!

望月 寛斗
HIROTO MOCHIZUMI

素敵なご時世の中 出迎えて頂いてありがとうございます!! 美しい水と満ちた空と 美しい景色に身を溶かしていきなさい。疲れた身体もすぐに消化していきなさい。皆様の前で直接心から出せる喜びを感じたい!!

風間 重美
EMIKAZAMA

今日は御来場ありがとうございます!! ほんまごときから参加となりましたし私だけ身体が楽な感じが良かったのか、生まれ変わったらダンサーになりましたか? のが、生まれ変わる前になれたのか? さすが生まれ変わりができる出羽三山の地 鶴岡!!!

大川 春奈
HARUKA OKAWA

お仕事の皆様へ。テケテケタクトオリジナルダンス公演見に来て頂きありがとうございます!! 日常の中にある普通の喜劇や想像を、ゲームのように楽しく、可笑しく、おこしく表現できるように誰もがアーティストになれればいいです!! 次はステージで一緒に踊りたい!! タクト!!

田花 遥
HARUKA TABANA

心いっぱい見て頂いて、ワクワクする素晴らしいイベントで、個性豊かな素敵な皆さまと作品作りできたことがとても幸せでした!!! テケテケタクト、ぜひお楽しみください!! 皆さまとの出会いに感謝!!!

当日パンフレット (Cプログラム)

三次市民ホール きりり

A4 二つ折り 両面 (1色)



北尾 亘 ダンス公演
『UMU - うむ -』 『笑う額縁』

2020.11.21sat 15:00 START
三次市民ホールきりり

主催 三次市民ホール事業運営委員会
共催 一般財団法人地域創造 (令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業)
後援 三次市、三次市教育委員会、三次ケーブルビジョン

生命の産声が身体に響き渡り、叫びとなったダンスが映像と掛け合わさる『UMU - うむ -』 "額縁"をダンスの枠組みと捉え、しがらみからの解放を求め群舞がスパークする『笑う額縁』 新たなダンスの世界がきりりに広がる。

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。
初めましての方は「はじめまして!」、北尾亘です。
このような大変な時期に、初めましての地である三次・きりりで大切なレパートリー作品
たちを上演出来ます事、そして皆様にご覧いただける幸せを噛み締めています。

新たなダンスとの出会い、皆さんはどう受け取ってくださるのでしょうか?
人との聲がりが分断されてどうしようもない状況の中でも、身体(からだ)は常に息衝いて
いる。そしてきっと、色んな"実感"を求めている。そんな気がしています。
何でも情報が入る時代の中だからこそ、生の舞台上、新鮮なダンスと出会い、語りや息
遣いから"目の前"で生まれる躍動"を味わっていただけたら幸いです。どうかその瞬間の連続
が皆さんの確かな実感になりますように。

あとはもう頭を空っぽにして存分に楽しんでいただきたい!
皆さんお一人お一人が感じる全てが正解であり、私たちの語りを育んでくれます! レッツ・
グループ・トゥデイ!

北尾 亘

北尾 亘 Wataru Kitao

1987年兵庫県生まれ神戸川崎育ち。幼少期よりミュージカルを中心に舞台芸術に
関わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2006
年より木佐貫邦子に師事。2009年ダンスカンパニー「Baobab」を旗揚げ、全作品の
振付・構成・演出を担う。12回の単独公演ほか国内外のフェスティバルに参加。
若手ダンスアーティストへ向けたフェスティバル「DANCE X Scrum」を主催。自
らディレクターも務める。振付家として多数の演劇作品・CM・TVドラマ・映画
に振付。近年では連続テレビ小説「半分、青い。」での振付が好評を博す。日本全国で
WS講師やアウトリーチ活動を展開し、ダンスの普及活動にも積極的に取り組む。
ダンサー・俳優として近藤良平(コンドルズ)、多田謙之介(東京デスコック)、杉
野邦生(UNO)、中瀬敏江(時鳴うろ)、山本由命(龍宮遊楽)などの作品に出演。4
カ国20都市以上で舞台に立つ。俳優4人の楽曲ユニット「さんびんメンバー」とし
ても活動。表舞台は多岐にわたる。
横浜ダンスコレクション2018コンペティション「F2020」ベストダンサー賞。
第3回エルスール財団新人賞。トヨタコログラフィアワード2012オーデエ
ンス賞など 受賞多数。
尚美学園大学舞台表現学科、桜美林大学芸術文化学部 舞踊講師



米田沙織 Saori Yoneda

1987年東京都生まれ千葉県育ち。幼少期クラシックバレエを習い、桜美林大学に
てコンテンポラリーダンスに出会い情熱する。以後木佐貫邦子に師事。また在
学中より振付・演劇作品にも出演し役者としても活動する。
Baobabには初作品「SHACKLES」より参加。
2010年「舞白のスープ」の完璧な配役東京公演参加を期にメンバーとなる。以後数多くの作
品に出演。ワークショップアシスタントや振付
助手も務める。
Baobabのほかタマ企画でも活動。井水雄雄
香とのダンスデュオ・ヨネエリを経て個人の
創作活動も行っている。



岡本 優 Yu Okamoto

東京都出身、ダンサー/振付家。東京
を拠点に国内外で活動。3歳よりク
ラシックバレエを始め、ヒップ
ホップやジャズダンス、ステップダン
スなども経験。2011年桜美林大学
卒。入学後より木佐貫邦子に師事。こ
れまでに笠井敬、木佐貫邦子、笠井雄
丈 × 上村なおか、近藤良平、伊藤千
枝、眞田貴章、熊谷研明等の振付作
品に参加。笠井氏の作品では「タリア・メキシコ公演を経
験。全員めがねの舞踏ダンス集団「TABATHA」主宰。全ての組
合演出を担う。国内外、空間を壊す創作パフォーマンス
を行う。これまでにWiz World Dance Festival2016(韓国・
仁川)、Sibu International Dance Festival2019(マレーシア・
シブ)に参加。MV等の映像作品にも出演。CM・アイドル・
演劇作品に振付も行う。Studio RADA / L+L 講師。
NEXTREAM21 in RIKKOUKAI vol.11 公開ダンスコンテスト
一般部門 <優秀賞> 受賞
トヨタコログラフィアワード2012ファイナリスト
こりっく舞芸芸術まつり 2014 春にて < 優秀賞 > 受賞
(Baobab「TERAMACHI」)
横浜ダンスコレクション 2019< 若手振付家のための在日
フランス大使館賞 > < シビウ国際演劇祭賞 > 受賞
演劇オン★ステージ新聞「2019年オン★ステージ舞踊ベスト
5」受賞(笠井敬/高丘親王新海記)



1部 『UMU - うむ -』

出演: 北尾亘 映像: 中瀬俊介 (Baobab)

1部終了後 セッショントーク

2部 『笑う額縁』

出演: 北尾亘 米田沙織 (Baobab) 岡本優 (TABATHA)

神戸アートビレッジセンター

A3 二つ折り 両面 (1色)


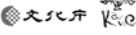
~~~~~  
 \急遽ライブ配信決定/  
 明日、1月17日(日)開催!!  
 緊急事態宣言発令につき  
 「第三回新聞地カブキモノ大興行」を  
 「ツイキャス」でライブ配信いたします!!  
 ~~~~~


【ライブ配信情報】
 第三回 新聞地カブキモノ大興行
 ~緊急事態 ver.「それでも、踊る!」~
 出演：山猫団(やまねこだん) / 長井江里奈 / 北園 優 / 鈴木綾香 / ニシハラ☆ノリオ
 日時：2021年1月17日(日) 13:30 ~ ツイキャス有料生配信
https://twicasting.tv/kavc_stage/shopcart/49231

料金：1,000円(手数料別途)
 ※2021年1月31日(日)までのアーカイブ配信あり
 リアルタイムでの配信を見逃したという方も、チケットをご購入いただくアーカイブ
 期間中は何度でもご視聴いただけます。
 ※「ツイキャス」のみでの配信となります。
 ※ご鑑賞にはログインが必要です。予めご登録等のお手続きをお願い致します。

舞台監督：大田和司
 照明：森 規幸 (balance.inc.DESIGN)
 音響：西川文章
 舞台美術：ニシハラ☆ノリオ
 映像撮影：河原岳史・高安智美 (朝博忠劇団)
 写真：新田さやか
 デザイン：ヨシ中谷・片山さあ (アンタノシカク)
 スタッフ：小宮秀太郎 (藤糸橋合同会社)、青井拓也・菅 亮太 (地域創造)
 羽仁真理子・前田詩徳・山本和馬 (KAVC) / 近藤のぞみ (KAVC)
 吉川美沙・竹谷淳也・三村正夫 (株)ビーエーシーウエスト)
 受付協力：竹下土敏・笹倉泰子

主催：神戸アートビレッジセンター (指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団)
 共催：一般財団法人 地域創造 (令和2年度 公共ホール現代ダンス活性化事業)
 協力：新聞地本通商店街、新聞地まちづくり NPO



夢と踊れ! だんす一座

緊急事態 ver. 「それでも、踊る!」 2021年 1/17[®]
 13:30頃~ 劇場公演
 神戸アートビレッジセンター KAVC ホール

神戸・新聞地は、映画館や寄席小屋、立ち飲み屋や場外券場が立ち並び、雑多ながら魅力的でとても人情味あふれる街です。わたしたち神戸アートビレッジセンター(KAVC=カブツク)は、新聞地にあるアートセンターとして、その魅力をもっと伝えたい!このまちと一緒に踊りたい!そう強く思ったところから、この企画「新聞地カブキモノ大興行」がスタートしました。今年で3回目になります。

関東からダンサー長井江里奈さんが降り立ち、新聞地の今を踊ろう、新聞地の未来を一緒につくりたいという KAVC の想いと共に、「新聞地舞踊歌劇団」というアマチュア集団も立ち上がりました。商店街を練り歩き、そのカブキモノな姿はある意味風物詩ともなっていました。

2020年度もやりたい。みんなに会いたい。
 長井江里奈さん率いる「山猫団」が今回もカブキモノ公演と大行列を行う予定でしたが、収束しないコロナ禍、そして2回目の緊急事態宣言・・・


私たちは急遽先週日曜日に話し合いました。
 緊急事態の中で、できるのか、何ができるのか、何をすべきなのか。

全く違う形でやりませう。
 このコロナ禍、ステイホームという状況、そして1月17日という私たちに忘れてられない日に、「それでも、踊る」という決断を、私たちはしました。

皆の知恵と工夫と想いの結晶です。
 つぶれても、こわれても、ゼロから生まれ、立ちあがる、生まれる瞬間を。

アートとかダンスってわずかしらそう。でもその入口は、実はいろんなところにあるのです。一歩足を踏み入れると、なんだかおもしろそうな世界がそこに広がっています。この催しで少しでもそれを感じていただければ幸いです。
 本日はご来場まことにありがとうございます。
 最後までごゆっくりお楽しみください。

神戸アートビレッジセンター



先行きが見えない日々の中で正解がわからなくなっていました。
 中止か延期か、続行か中断か、攻めか守りか。
 残された選択肢は正解を求めるのではなく、ただ目の前のものを受け入れて最善を尽くすだけでした。
 嗚然としつつも周りを見回すと、これまででずつと多様なものを受け入れてきた空っぽの劇場があり、そこで最善を尽くし続けてきた人達がいました。
 彼らの手も足も知恵も経験も体力も全て削り、持てる全てを振り絞って今作れるものを作りました。
 舞台人としてこんなことをお客さまに言う日が来るとは思っていませんでしたが、一所懸命に作り直したのでどうぞ最後までご覧ください。

山猫団代表/長井江里奈

山猫団
 長井江里奈
 北園 優
 鈴木綾香
 ニシハラ☆ノリオ

ダンサー長井江里奈さんの公演は、2013年3月以降、山猫団の公演として行われてきました。長井江里奈さんは、山猫団の公演を通じて、神戸市民文化振興財団と連携し、新聞地舞踊歌劇団の公演にも参加しています。今回の公演は、山猫団の公演として行われます。

白河文化交流館コミネス

A4 片面 (1色)

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業
康本雅子ダンス公演 「子ら子ら」

2021年1月30日(土) 14:00開演
白河文化交流館 コミネス 小ホール

出演/康本雅子 小倉笑
振付・演出/康本雅子

アフタートーク ●●● 康本雅子 小倉笑 宮田慶子(コミネス館長)

今日はこのような時代に劇場に足を運んで下さり、どうも有難うございます。

この作品は3年前にふと思い立って作ったものです。
子育ての焦燥や矛盾をリアルに感じている今しか作れないだろうと思い、アレやコレを
まんま詰め込んだ私小説のような作品です。
この3年の間にも子はすくすく成長し、私はみるみる老いていき、親子関係はどんどん
変わっていきます。
そう、親子だから不変、なんてことはない。愛があるのは当然、なんてこともない。
親子という事実が目を曇らせる。こともあるのです。
だからこそ毎日確かめる。お互いの存在を確かめる。めんどくさくても確かめる。
という訳で、どうか気軽にツッコミ入れながら見て頂けたら幸いです。

康本雅子

康本雅子公式サイト <http://yasumotomasako.net/>
<https://www.facebook.com/yasumotomasako/>

主催 白河文化交流館コミネス指定管理者 NPO 法人カルチャーネットワーク 共催 一般財団法人 地域創造
後援 白河市 白河市教育委員会 福島民報社 福島民友新聞社 ラジオ福島 ふくしま FM

A3 二つ折り 両面 (4色)



大駱駝・田村一行 舞踏公演

ジョン万流離譚

John Mung Ryuritan

舞踏 土佐清水風土記

振付・演出・美術：田村一行
出演(大駱駝)：田村一行
塩谷 智司
小田 直哉
テクニカルスタッフ(大駱駝)：
阿蘇 尊
グラフィックデザイン：濱崎 明弘
(18°C design)
Photo by 池内 正人



大駱駝・田村一行 舞踏公演

ジョン万流離譚

John Mung Ryuritan

舞踏 土佐清水風土記

令和3年3月21日(日) 開演 14:00
土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール

振付・演出・美術：田村一行
出演(大駱駝)：田村一行
塩谷 智司
小田 直哉
テクニカルスタッフ(大駱駝)：
阿蘇 尊
グラフィックデザイン：濱崎 明弘
(18°C design)
Photo by 池内 正人

場面表題

壹 祿のはじまり
 貳 火の鳥
 参 大覚寺の前で
 肆 Bloo-i-ows!
 ナンタケットのそりすべり
 伍 信天翁
 陸 澤流者
 柒 どんこ
 捌 季節は運るえんけれせ
 玖 いのち人
 拾 万太郎なりしか
 拾壱 エヒーローグ

ご挨拶

本日はご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
 昨年より続く大変な状況の中、土佐清水にお招きいただき、大変光栄に存じます。
 この一年の部屋にこもらねばならない陰鬱な時間も、本作品を構想する時だけは、信じがたいほど壮大な大海原を旅することができました。
 ジョン万次郎の生涯に触れれば触れるほど、ジョン万次郎の魂になっています。
 『ジョン万流離譚』は、私がそこで体感した様々な情景、垣間見た人間の強く優しい思いを、自分なりにまとめあげた次第です。
 最後までとなりましたが、本公演は多くの方のお力にまよって実現しました。
 この場をお借りしてお礼申し上げます。
 本日は誠心誠意、舞白に立つ所存です。
 最後までごゆっくりお楽しみください。

田村一行




Photo by 松田 純一


主催：土佐清水市立市民文化会館 共催：土佐清水市教育委員会・一般財団法人 地域創造

＜大駱駝からのお知らせ＞

大駱駝・舞踏公演 松田萬史「まだら」【Streaming+(配信)】

受付期間：3月19日(金)～25日(木)21:00
観覧可能期間：3月19日(金)～25日(木)23:59
観覧券：1,500円
<https://eplus.jp/detail/3393040001-P0030001P0210017P1-1221>

大駱駝・舞踏公演
松田萬史「まだら」
振付・演出・美術：松田萬史
舞踏：松田萬史 田村一行 塩谷智司 小田直哉
振替：松田 寛井啓次 阿蘇 尊
音楽：薬山健一郎 geskia
監修：藤 赤兒



チケット購入用 QR コード

令和2年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2 対象団体

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、下記4の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

4 事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

※ビジョンとは、別記様式1-2の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう。

(1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募型のワークショップを4～5回実施する。ただし、アウトリーチは3回、公募型ワークショップは1回実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

(2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

原則として、全9日間の事業日程を連続する4日間及び連続する5日間などの2回に分けて、市民参加作品を創作し1回上演する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程でコンテンポラリーダンスの公演（レパートリー作品）を1回上演する。

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

(1) 登録アーティスト等派遣経費

① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料
※テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手、制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

(2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2の対象経費の2/3以内で、50万円を上限に実施団体に対して負担する。

6 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターをアドバイザーとして派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

7 提出書類等

(1) 事業申込書 …別記様式1-1、1-2、1-3（1-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

令和2年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、令和元年5月31日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2(2)及び(3)に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1-4）。

- (2) 事業実施計画案 …別記様式2-1、2-2
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。
- (3) 事業実施計画書 …別記様式3-1、3-2、3-3（3-3はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。
- (4) 事業実績報告書 …別記様式4-1、4-2、4-3（4-3はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業終了後30日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。
ただし、令和3年3月16日（火）以降に事業が終了する場合にあっては、令和3年4月16日（金）までに提出すること。
- (5) 公演負担金請求書 …別記様式4-4（Bプログラム及びCプログラムのみ）
該当する経費がある場合は、事業終了後30日以内に、別途指定する関係書類を添えて当該書類を提出すること。
ただし、令和3年3月16日（火）以降に事業が終了する場合にあっては、令和3年4月16日（金）までに提出すること。
- (6) 変更承認申請書 …別記様式5-1、5-2
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

8 その他

- (1) 共催に関する表示
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。
【表示例】共催：一般財団法人地域創造、共催：（一財）地域創造
- (2) 損害賠償の免責
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。
- (3) 関係書類の提出
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。
- (4) 情報提供
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。
- (5) その他
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

登録アーティスト

令和2年度 登録アーティスト（8組）

北尾亘、白井剛、田村一行、長井江里奈、中村蓉、藤田善宏、マニシア、康本雅子

参考

事業の流れ・手続き等

●令和元年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月～5月末	申込み受付 申込書締切：5月31日（金）	事業申込書
7月上旬	事業内定通知	
7月29日 ～7月31日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 開催場所：東京芸術劇場	
8月中旬	事業実施計画書の提出	事業実施計画書
9月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

●令和2年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4月上旬	事業決定通知	
4月～	個別研修（現地地下見）の実施	
事業実施 2か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30日以内	・実績報告 ・負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 (Bプログラム及びCプログラムのみ)

公演負担金対象経費（対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円）

※ Bプログラム及びCプログラムのみ対象

1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ 登録アーティスト等の現地移動にかかる交通費
- ⑧ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

●大澤苑美（八戸市新美術館建設推進室 主事兼学芸員）

1983年名古屋市生まれ。東京藝術大学大学院修了。2004～2006年取手アートプロジェクト（茨城県取手市）運営スタッフ。2008年から（一財）地域創造に勤務し「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」を担当。2011年4月より現職。コンテンポラリーダンスを軸に、地域の資源や人を巻き込んで行う「南郷アートプロジェクト」、八戸の工場とアートを組み合わせて魅力の発信をする「八戸工場大学」などのアートプロジェクトの企画運営を担当するほか、八戸市新美術館準備など八戸市の文化行政に携わる。

●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977年岩手県一関市生まれ。小学校から郷土芸能「鹿（シシ）踊」を始める。関東の大学で外国語文化を学び、台湾での留学を経て、自らとそれを形作る文化について考えるようになる。帰国後、郷土芸能のネットワーク組織（公社）全日本郷土芸能協会に入職、芸能の魅力発信や支援、コーディネートに携わる。また、東京鹿踊ならびに縦糸横糸合同会社を組織し、風土とその暮らしの中で受け継がれてきた地域文化（芸能、祭り、技、食など）の継承と発展、関わり方の入口をデザインする企画提案を行っている。（公社）全日本郷土芸能協会理事（東京都）、縦糸横糸合同会社代表（宮城県仙台市）、東京鹿踊代表、行山流舞川鹿子躍保存会員（岩手県一関市）。

●神前沙織（NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN) チーフ・コーディネーター／ディレクター）

2005年よりJCDNにて「踊りに行くぜ！！」等のプロダクション・マネージャーを担当。2009年より、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の全国的な普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネート。2012年より、沖縄・大阪・滋賀など各地の小中学校にダンスアーティストを派遣。高齢者／児童福祉施設、少年更生機関などと連携しダンスプログラムの企画・コーディネート。ほか、振付家、ファシリテーター育成事業など、京都を拠点にダンスと社会をつなぐ様々なプログラムを行っている。

●坂田雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター プロデューサー）

宮古市民文化会館館長補佐・プロデューサー、岩手県文化芸術コーディネーター（県央・沿岸）、三陸国際芸術祭のディレクター、調査・コンサルティング事業などを担当。2003年より桜美林大学パフォーマンス・アーツ・インスティテュートに所属、芸術地域通貨ARTSを開発・運用や附属劇場の企画・運営などを行う。2007年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業や領域横断型の文化芸術プロジェクトを担当し、現職。

●中富勝裕（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

2006年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外との共同制作や数々のダンス公演を担当。アーティストの育成、発信や活動場所拡充のため、国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を手がけている。Seoul Choreography Contest 審査員（2010年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition 審査員（2014年フィリピン）も務めた。

●中西麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

1980年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006～2008年大阪市内の小中学校に教諭として勤務。その後1年半のイギリス留学を経て、2011年3月より「NPO 法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校（特別支援学級含む）や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

●宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

1997年～2015年、スパイラル / (株) ワコールアートセンターに勤務。パフォーマンスアーツを担当する他、スパイラル内外の展覧会やイベント企画に携わる。2年に一度、東京・青山を中心に開催している国際ダンスフェスティバル「Dance New Air」には前身のダンスビエンナーレトーキョー 2004から参加。劇場空間だけでなく、屋外スペースや映画館、ブックセンターなど様々な場所を舞台にダンスを通して新たな可能性を提案している。2015年8月より（一社）ダンス・ニッポン・アソシエイツ代表理事。

令和 2 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒 107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／令和 3（2021）年 5 月